

【文部科学省】

平成21年度 大学教育・学生支援推進事業【テーマB】(学生支援推進プログラム)

「初年次から取組む卒業生参加型の キャリア形成・就職支援の展開」

活動報告書

(2009-2011)



平成24年3月

実践女子大学

ご挨拶



実践女子大学 学長 湯浅 茂雄

平成 21 (2009) 年度に文部科学省学生支援推進プログラムに応募し、すぐれた取り組みとして採択された本学プログラム「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」も 3 年を経過しました。ここで、さまざまな取り組みの内容とその成果の分析、今後の展望を報告書としてまとめることになりました。

本プログラムの進展は、本学の新共通教育カリキュラムの進展と軌を一にし、互いに補完、連携する関係にあります。すなわち実践女子大学・実践女子短期大学は、2 年間の検討、準備期間を経て、共通教育のカリキュラムを大きく刷新し、平成 21 (2009) 年度から実践スタンダード科目群をスタートさせました。全学必修の初年次教育、キャリア教育、外国語教育、情報教育の四つの柱からなりますが、最初の二つはそれまで本学には無かったものでした。初年次教育(実践入門セミナー)は、新入生が速やかに高等教育で学ぶ態勢を整えることを支援することを主目的とするものですが、この中で自校教育(下田歌子に学ぶ)もできるようになりました。また、キャリア教育(実践キャリアプランニング)は、マナー教育も含めて、生涯にわたる人生設計の力を養うことを目的とするものです。一方、本プログラムでは卒業生の参加がキーワードであり、そのキャリア形成支援では、卒業生や一線で活躍する女性のロールモデルをさまざまな形で学生に提示することが重要な内容となっています。そのスタートが、高い志をもって困難を克服し、社会に貢献した創業者下田歌子に学ぶ自校教育にあるという関係にあります。また、初年次教育とキャリア教育のカリキュラムの新設は、教学部門と事務部門の連携を実現させましたが、本プログラムの採択によって、特に、共通教育を推進する大学教育研究センターと事務部門のキャリアセンターがより強く連携する態勢が整ったことは大きな成果でありました。

3 年間の取り組みで課題も見えてきました。建学の理念に基づき、今後さらにプログラムを充実させ、実践力をもって、自らの人生を自ら切り開き、社会に貢献する女性の育成に努めてまいります。

また、このように取り組むことができたのは、卒業生の組織である一般社団法人教育文化振興実践桜会の皆様の並々ならぬご支援や、本プログラムの趣旨にご賛同をいただいた多くの卒業生の講師の皆様のご協力があったからこそです。心より感謝申し上げますとともに、今後ともお力添えいただけますようお願い申し上げます。

3年間の取り組みに寄せて

2009/2010年度 キャリアセンター長
プロダクトデザイン研究室 教授 塚原 肇

2008年に突如世界を襲ったリーマンショックは、大学におけるキャリア教育にも甚大な影響を及ぼした。特に学生を採用する側の評価基準が従来とは大きく変わったことが挙げられる。それまで多くの企業が採用していた成績一辺倒の「学力主義」から、多様性と個性を重視した「能力主義」へと評価基準をシフトしたためである。実践女子大学では、いち早くこのシフトに対応すべく、キャリア教育プログラムの見直しと新たな計画の立案・実施に取り組む必要があった。

実践女子大学では、2010年、新たな枠組みとプログラムの立案・実施を目的とし、キャリアセンターを中心に「キャリア推進委員会」を組織した。この委員会で重要視した点は、従来型の講義主導から卒業生参加型による実学講座の充実である。また、昨今機能の充実が著しいITツールを利用した視聴覚教育も取り込まれた。具体的には、

- ・初年度からキャリア教育の必修化
- ・SNSを有効利用した対話型コミュニケーションの活用
- ・卒業生によるロールモデル講話の充実
- ・PCやDVDを活用した視聴覚教育の充実
- ・学生のみならず父母への各種セミナー等の実施など

さて、残された課題だが、社会状況は数年前とは比べものにならないほどのスピードで変革している。この変化に対応すべく立案した新しいキャリア教育プログラムは始まったばかりで、全てが上手く機能しているとは言いがたい。これらをキャッチアップするためには座して待つ教育から発信型教育への意識改革が必要である。それは、キャリア教育に携わる教職員のみでなく、全教職員及び家庭での意識改革があって初めて機能する。

キャリア形成・就職支援の推進

2011年度 キャリアセンター長
キャリアデザイン研究室 教授 金田 肇

2010年4月大学設置基準改正で「学生の社会的・職業的な自立指導」が義務化され、本学ではこれに先駆け、2009年からキャリア形成支援科目を開講し、キャリア系のオープン講座という新しい授業も続々と始動させた。

学生は未来の自らの進路を考える前に、目まぐるしく変化する社会の状況をタイムリーに把握する必要がある。さらに従来のアカデミックな授業から、実社会の動きに基づいた実学的な授業へと大きく変えて行くことも重要だった。以下、具体的な取り組みを記述する。

現代の若者を能動的に受講させるには、単なる講義ではなく、視聴覚機器を駆使したり、時には外部からの講師を招聘し、変化に溢れるプログラムにすることも大事な要件である。女性のキャリアは実に多様性に富んでいて、「これが成功」と言うものは無く、十人十色の人生が展開されている。未来の進路を描かせる時に、一つのパターンを紹介し、後は自分で解釈させるというのは余りにも無理がある。そこで一番有効な手段は、先輩を招聘し、実社会のロールモデルを見せることと判断し、多くの卒業生を輩出している当大学の中から、学部・学科に応じた人選をし、講義及び質疑と言う形で登壇して貰った。その評価は本文に記載してあるように極めて好評といえる。アンケートの中でも「もっと違う話も聞きたい」というリクエストが多いため、卒業生たちのキャリアを一冊の本にして学生に配布することにした。次年度はその卒業生をゲストとして招聘、ロールモデルが目の前に現れるという立体的な授業を実施する。

この報告書が今後の大学におけるキャリア教育の一助となり、在学生と卒業生のコミュニティの更なる展開を実現していくことを願う。

目次

ご挨拶	1
3年間の取り組みに寄せて	2
キャリア形成・就職支援の推進	2
序章	6
第1章 キャリア形成支援（キャリア教育）	8
1. 卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業	8
(1) 取組の趣旨、目的、概略	8
(2) 実施リスト	9
(3) 卒業生による講話内容	10
(4) アンケート集計	14
2. アラムナイ DVD	15
(1) 取組の趣旨、目的、概略	15
(2) DVD「輝く女性たちへ 社会で輝く実践生」 Vol.1	16
(3) DVD「輝く女性たちへ 社会で輝く実践生」 Vol.2	19
3. アラムナイテキスト「燦」	22
(1) 取組の趣旨	22
(2) 制作の目的	22
(3) 冊子の紹介	22
(4) 取材を通して	29
第2章 就職支援（キャリアセンタープログラム）	30
1. 学生支援推進プログラムの紹介	30
(1) 就職懇談会（2010年度よりOG訪問会に改名）	30
(2) キャリア塾	32
(3) 学内企業セミナー	33
(4) 父母のためのセミナー	34
(5) プレ社会人セミナー	34
2. 就職支援対策	35
(1) SPI試験対策	35
(2) キャリアカウンセラーの要請	36

第3章 Web上のコミュニティ「実践アラムナイ」	38
1. 卒業生（アラムナイ）会員の登録受付	38
(1) 卒業生会員の利用登録	38
(2) 在学生の利用登録	38
2. SNSサイト「実践アラムナイ」の活用	38
(1) 取組の趣旨、目的、概略	38
(2) SNSによる卒業生の就職支援	38
(3) 初年次教育、キャリア教育の授業コンテンツ	39
(4) キャリア教員によるブログ、コミュニティ、研究室コミュニティ	39
1-1. 「常見陽平の愛のキャリア塾」	39
1-2. 「実践！選考対策」	40
1-3. 「プロダクトデザイン研究室」	40
(5) Web上のコミュニティ・ブログ	41
1-1. 「あなたのためのレシピ集」	41
1-2. 卒業生（実践キャリアネット）	41
1-3. 卒業生	42
1-4. 「実践SPI塾」	42
1-5. 学生プロジェクト紹介、連絡	44
1-6. 在学生	45
第4章 広報、イベント等	46
1. ホームページ	46
2. リーフレット（卒業生への周知）	46
3. クリアファイル（在学生・卒業生への周知）	47
4. イメージデザイン	49
5. 秋葉原ポスターセッション参加	49
6. アラムナイ・フォーラム	50
第5章 運営実施	52
1. 実施体制	52
2. キャリア形成推進委員会	52
3. 利用規約	55
第6章 分析と考察・今後の展開	56
1. 取組の効果	56
2. 課題と考察	61
3. 今後の計画（平成24・25年度）	65

終章	66
データ・資料集	68
① 卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業 表、グラフ、コメント集	68
② 授業コンテンツ（リスト）、HPイメージ集（パターン①、②）	118
③ 「JISSEN ALUMNAE 利用規約」	122

序章

実践女子大学では、2009年4月より「目標実現のための実践力の形成」を目標に掲げ、初年次教育として「実践入門セミナー」とキャリア教育「実践キャリアプランニング」の全学的展開を柱とした新共通教育をスタートした。実践入門セミナーは、専任教員による少人数指導により、目標をもった自主的な学びを支援し、実践キャリアプランニングは、主体的に進路を選択する力を養う目標を持つ。

この新共通教育は2007年6月から、学長私案や、途中、文部科学省の中教審答申『学士課程教育の再構築に向けて』の内容等も踏まえて学内の委員会で検討を重ねたものである。2008年4月、これに基づき、学長から(大学・短期大学)合同教授会に共通教育の検討が提案され、委員会等で具体的な検討に入り、2009年度入学生からの新共通教育カリキュラム導入を実施した。

2009年4月、学長から、その運営組織についても検討が提案され、大学・短期大学のそれぞれにおいて1年かけて検討・準備した結果、2010年4月から、「大学教育研究センター」「短期大学教育研究センター」がそれぞれ発足し、共通教育についてはこれらの組織が実質的に運営を担うこととなった。



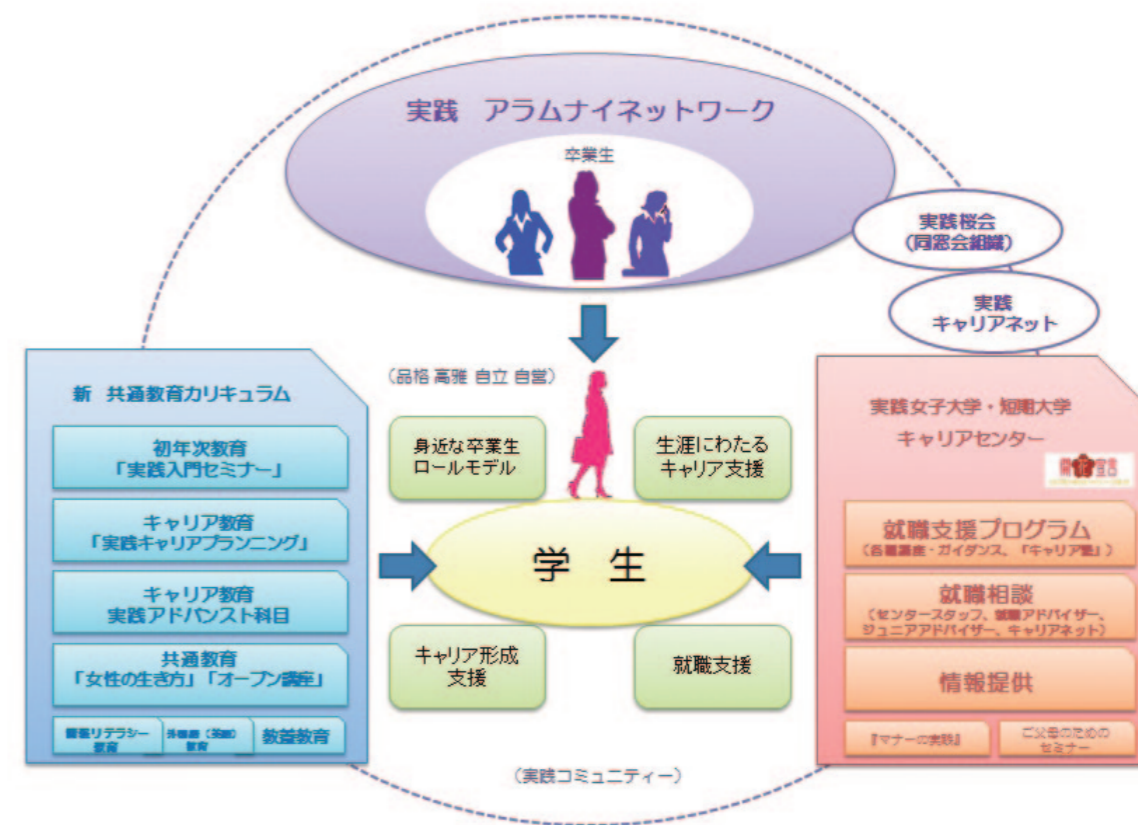
一方、こうした教学組織の動向に先駆け、事務組織では2004年より「学生部就職課」が「キャリアセンター」へ組織変更し、単なる求人票ベースの就職情報紹介業務ではなく、学生のキャリア形成・就職支援につながるプログラムを充実させた。

具体的には、社会情勢の変化や就職活動の早期化に対応する中で、就職戦線に遅れをとらないための準備プログラムとなり、さらに低学年からの動機づけプログラムを模索したが、次第にキャリアセンター単独で提供できる事務サービスの限界も見え始めた。

その課題は、入学時からの学生生活や大学の学びを積み重ねる上で重要な基本的な力をしっかり身につけさせるという、新共通教育の初年次教育・キャリア教育の目的とも符合し、段階的にキャリア形成支援を積み上げ、キャリアセンタープログラムへ連携する現在のキャリア教育の体系に至った。この中では、企業からの外部講師を活用する授業回等も多く取り入れている。

このような中、2009年からは、さらに「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」のテーマで、文部科学省平成21(2009)年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム(テーマB)に応募し、3カ年の補助事業として採択された。

本取組では、アラムナイネットワークを構築し、コミュニティを形成すると共に、学生にとって身近な卒業生ロールモデルを提示し、初年次・キャリア教育、就職支援プログラムと連結した。具体的には、卒業生によるキャリア形成支援、就職相談、学生と卒業生による各種イベントでの交流を通じて、学生の学習意欲と初年次からの学びの質を向上を目指した。また、Web上のコミュニティを活用し、卒業生には、起業・イベント等の情報提供、早期離職対策を行い、生涯にわたるキャリア支援も実践することを目標に活動してきた。



本報告書では、補助事業に関わる3カ年について、活動内容のまとめと点検を行ない、今後の展開について記載する。

第1章 キャリア形成支援（キャリア教育）

本章では、キャリア形成支援（キャリア教育）に関わる3つの取組について報告する。

まず、卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業である。これは、2年生の必修授業「実践キャリアプランニング」の授業回に、卒業生を外部講師として招いて、学生の前で直接話をしてもらう取組である。事業全体の中心テーマを表す取組でもある。

次に、「輝く女性たちへ 社会で輝く実践生」をテーマに、卒業生へのインタビューを中心としたDVDを制作した。これは、DVDというメディアを通じて、できるだけ多くの学生や父母に、本学の卒業生には社会で重責を担って活躍しておられる著名な方々が多数いることを知ってもらうと同時に、若くして堂々と活躍する卒業生や、様々な可能性を広げている卒業生たちから、学生たちへのアドバイスをいただき、キャリア教育の授業や就職支援の現場で活用する取組である。

さらには、アラムナイテキストとして、「燦 ーしなやかに そして力強くー」をテーマに、28名の若い卒業生たちの、社会で幅広く、多彩に活躍する姿をまとめた冊子編集を企画した。これは2012年度のキャリア教育科目の授業から補助教材として活用するためのものである。DVDの2作目とも連動している。

いずれの取組においても、卒業生たちはとても協力的であり、それぞれにメディアは異なるが、学生たちへ心からの熱い応援メッセージが込められている。そのさりげない表現の中には、キャリア形成・就職支援の観点から、とても重要な要素が多数含まれている。また、学生たちの感想や素直なコメントの中にも、重要な「気づき」が多数見受けられる。この章では、卒業生からのメッセージや在学生の感想をできるだけ多く、ありのままに記載することもしてみる。尚、寄せられた声はそのままに、一部は敬体の文章を残すことをご容赦いただきたい。

1. 卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業

(1) 取り組みの趣旨、目的、概略

卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業では、2年生の必修授業「実践キャリアプランニング」の授業回に、卒業生を外部講師として招いた。これは、2009年度の新カリキュラム学生が2年生になる2010年度前期から順次実施しており、これまでに18名の卒業生を招き、2年間で1697名の学生が卒業生のロールモデル授業を受講したことになる。(2010年度、2011年度の各前・後期、2年生の合計)

卒業生の対象は、学生たちが自分にイメージを重ねやすい世代であり、学生時代の自分を語れ、かつ、職場においてある程度自分の仕事を任せられるようになった年齢層ということで、入社3年から10年程度の範囲で選定し協力を依頼した。実施の詳細は次の(2)実施リストに示す。

卒業生には、「学生時代の過ごし方」「就職活動」「勤務先と仕事内容」「社会人としての心構え」「在学生へのアドバイス」といった内容を具体的にそれぞれの授業で語ってもらうとともに、この授業回では効果測定のため必ず学生アンケートを実施した。

これらの詳細を(3)卒業生による講話内容、(4)アンケート集計に示す。なお、アンケートの詳細について、表・グラフ・コメント集としてまとめたものは、巻末のデータ・資料集①としてまとめている。

本取組については、毎回のアンケートに示す通り、学生の満足度はとても高い。実際に授業の終了時に様子を確認した際には、学生たちが興奮冷めやらぬといった状況の回もあった。この取組については、1年生でのDVD鑑賞とともに「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」の中心テーマでも

あり今後さらに工夫を重ねながら継続していく。

(2) 実施リスト

以下に、詳細な実施リストを示す。実施の当初は、「社会で輝いているOG」を中心に学科を問わず選定していたが、アンケート結果から、「同じ学科の卒業生」の方が自分たちの将来を重ねてイメージし易く、「ロールモデル」として効果的であると判断し、できるだけそのような設定をするように改善した。

表 1-1：卒業生ロールモデル授業実施リスト（2010～2011年度）

	No.	実施日	講師（卒業生）	実施学科、聴講数
2010年前期	①	5月24日5限	2008年生活文化学科卒業生（JR東海）	生活環境学科2年 83名
	②	5月25日5限	2008年人間社会学科卒業生（JTB首都圏）	生活文化学科2年 50名
	③	5月28日5限	2008年食物科学専攻卒業生（日本アクセス）	国文学科2年 117名
	④	5月28日6限	2006年国文学科卒業生（毎日コミュニケーションズ）	人間社会学科2年 103名
2010年後期	⑤	10月25日5限	2001年美学美術史学科卒業生（双日ジーエムシー）	美学美術史学科2年 93名
	⑥	10月26日4限	2009年保育士コース卒業生（日野市立さかえまち児童館）	幼児保育専攻2年 42名
	⑦	10月26日5限	2006年食物科学専攻卒業生（マルハニチロ食品） 2007年食物科学専攻卒業生（メリーチョコレートカムパニー）	食物科学専攻2年 89名
	⑧	10月29日4限	2007年英文学科卒業生（日本生命）	英文学科2年 131名
	⑨	10月29日5限	2007年管理栄養士専攻卒業生（明治乳業研究所）	管理栄養士専攻2年 92名
2011年前期	⑩	5月16日5限	2007年生活環境学科卒業生（西川産業）	生活環境学科2年 105名
	⑪	5月20日4限	2009年国文学科卒業生（毎日コミュニケーションズ）	国文学科2年 143名
	⑫	5月20日5限	2010年人間社会学科卒業生（ファーストリテイリング）	人間社会学科2年 176名
2011年後期	⑬	5月24日5限	2005年生活文化学科卒業生（JR東海）	生活文化学科2年 50名
	⑭	10月28日4限	1995年英文学科卒業生（三省堂書店）	英文学科2年 143名
	⑮	10月28日5限	2009年管理栄養士専攻卒業生（明治）	管理栄養士専攻2年 65名
	⑯	10月31日5限	2005年生活環境学科卒業生（共立メンテナンス）	美学美術史学科2年 91名
	⑰	11月1日4限	2009年保育士コース卒業生（日野市立さかえまち児童館）⑥と同一人物	幼児保育専攻2年 49名
	⑱	11月1日5限	2009年食物科学専攻卒業生（ゼンショー）	食物科学専攻2年 75名



図 1-1：卒業生による授業の様子

(3) 卒業生による講話内容

以下に、卒業生による授業での講話内容を示す。授業では、担当教員が卒業生を紹介し、終了時には重要な内容を補足するとともに、学生たちと卒業生ができるだけ多く、直接質疑応答ができるように時間配分した。また、学生たちが予め調べたり、質問を整理できるように、可能な限り早めの事前予告を行なうようにした。

① 2008年 生活文化学科 卒業生

- ・就職活動では、「会社や人を通して社会に貢献したい」を軸に会社を選択した。
- ・社会人は楽しいことばかりではないが、学生よりも大きなこと、社会貢献ができる点が違う。
- ・皆さんへ。やりたいことを思い切りできて成長できる学生の時間はとても貴重、興味を持ったら、恐れずに飛び込んでみよう。だめであっても、「自分に合わなかった」と分かることは収穫。考えて行動しないより、小さなことでも構わないので、一歩踏み出してみよう。

② 2008年 人間社会学科 卒業生

- ・就職活動では、「人に喜んでもらえる仕事がしたい」と、サービス業を中心に活動。
- ・仕事では、飛び込み営業が上手いかず落ち込むこともあるが、お客様や先輩からの言葉が嬉しい時もある。これからは、自分に満足して成長してゆきたい。
- ・社会から見た実践生は、歴史ある女子大、真面目で品が良いとのイメージがあり、人事の人も安心感を持ってくれている。自信を持って。

③ 2008年 食物科学専攻 卒業生

- ・就職活動では、大好きな食を中心に企業を探す中で食品仲介業を知った。これから何年も働く会社なので社員の人柄で会社を選択した。
- ・仕事では、力不足で交渉等で一人ではできない部分があることが辛いですが、提案した商品が初めてメニューに載った時は嬉しかった。これからの夢は、会社に長く勤めて「彼女に聞けばなんでもわかる」存在になること。

④ 2006年 国文学科 卒業生

- ・最新のことをやりたくてIT企業に就職し、広報相手の営業を担当。経験を積んで自分なりの広報戦略も持てるようになり、逆の立場でもやっていけるのではと考えて現職に転じた。
- ・「社会人はつめたい」もの。各自が自立しているのが前提で、手とり足とり教えるは貰えない。またアドバイスは貰っても、それに振り回されてはいけない。
- ・皆さんへ。「プライドを持って志の高い、格好いい女性になってください。楽しみに待っています。」

⑤ 2001年 美学美術史学科 卒業生

- ・前職を退職し中国留学を経て現職に就いたが、自分が認められずに不満。自負心程には仕事ができないことに気付けなかった。再訪した中国の大変貌に自己の変革を決心して以来どんな仕事もこなすようになった。
- ・今も、企業は良い若者なら欲しい。しかし、自分が何者か説明できない若者では選びようがない。「何をしてきたか、何がしたいか」を説明できる人間になろう。また、態度も大切。挨拶はきちんと、相手の話

は“にっこり”と聞き上手になろう。若さと愛嬌を大切にしよう。

- ・大学では、コミュニケーション力を身につけよう。また、文章作成能力も大切。これがないと外国人にとって代わられてしまう。そして、専門家集団である先生とお話しして吸収しよう。まずは、ご挨拶から始めよう。

⑥ 2009年 保育士コース 卒業生

- ・新卒で新設の児童館に配属され緊張したが、職員の「一年目だからこそ失敗できる。」「失敗を恐れて何もやらないより、やってみよう。」との言葉に勇気づけられた。
- ・仕事では、利用者の心に寄り添い、受容し共感することを心掛けている。
- ・皆さんへ。友人を大切にしよう。学生時代も社会人になってからも、支えになってくれる。また、自分からフットワーク軽く動こう。現場で人と接し話を聞くことで分かることがある。色々な人の教育観・保育観を伺うことで、自分のやりたいことも見えてくる。

⑦ 2006年 食物科学専攻 卒業生、2007年 食物科学専攻 卒業生

- ・就職活動では、「軸をぶらさず一期一会の機会を楽しむ」を意識した。様々な企業の方とお話する中で、自分の将来像を描いていった。
- ・学生時代心がけたことは「人との繋がり」。就職活動でも企業や学外セミナーに沢山足を運び人脈を開拓した。
- ・社会人は、自分で考えて臨機応変に判断し行動すること、相手の立場で考えることが求められている。また、現状に満足せず、もっと良くするために何をすべきかを考える必要がある。
- ・皆さんへ。経験・知識がなくても自ら考えて行動する「ブレない自分」と、様々な環境に適応し自己変革できる「変われる自分」を持って欲しい。

⑧ 2007年 英文学科 卒業生

- ・知っている企業＝自分にあう会社とは限らない。色々な企業を見て進路を考えて欲しい。「営業は大変」のイメージも一度外して欲しい。
- ・会社は、学生の可能性を見たいと思っているので、小さいことでもよいから、何かに打ち込んで、「何かを持っている」自分になろう。
- ・就職活動が上手くいかなかったときは、次は少しでも先に進めるよう足りなかった点を自己分析しよう。分からない時は、友達や家族に相談しよう。
- ・皆さんへ。やりたいことは全てチャレンジしよう。就職活動は焦らずマイペースに、楽しみながら取り組もう。

⑨ 2007年 管理栄養士専攻 卒業生

- ・栄養士のボランティアを通じて、健康な人も栄養に関する情報を必要としていると知り、製品を通じて栄養をサポートする職を志望。さらに、ゼミの実験体験から、「研究職に就き一般の人の健康をサポートしたい」と考えた。
- ・仕事では様々なスキルを習得でき、学びたい、やりたい気持ちを大切に貫いている。同僚と意見交換し考え合い、頑張りが評価されることにやりがいを感じる。
- ・学生時代は、授業、サークル、アルバイトに加え栄養教諭にもチャレンジし多忙だった。目の前のこと

を一つ一つコツコツやっていくことの大切さを学んだ。また、授業は地道に取り組めば将来必ず役に立つ。

⑩ 2007年 生活環境学科 卒業生

- ・会社はお金をいただきながら勉強出来る場所。その分、簡単なことではなく、9割は苦勞。しかし、残り1割の喜びとやりがいと他を打ち消すほどの価値がある。だからこそ、自分の好きなことを仕事にしよう。
- ・皆さんへ。自分のことを良く知る時間を設けよう。就職活動で一番大切なのは自分を知ること。分からなかったら、親や友達に自分のいいところを聞いてみよう。また、誰にも負けない何かを持とう。「素直です。言われたことはきちんとやります。」だけでは仕事にならない。

⑪ 2009年 国文学科 卒業生

- ・営業として様々な人に出会う変化に富んだ日々、知識も人脈も豊富になった。担当顧客には会社代表として責任感を持って対応し、一生懸命考えた提案が通った時の喜びも大きい。
- ・普段から疑問に思ったことは、その原因を考えよう。即座に考える癖がついていないと、面接の問いに即応することができない。日頃から相手が何を自分に問うているのか考えよう。
- ・資格は、語学力が必要な職業等あった方が有利な職業もあるが、それ以外なら、資格の有無より、会社を良く研究し志望動機をきちんと語ることでできる人の方が企業の印象に残る。

⑫ 2010年 人間社会学科 卒業生

- ・就職活動では、当初プライダル企業を志望して落ち続け、「人の笑顔をみたい」を軸に希望分野をサービス・接客業に広げた。
- ・会社の店長代理試験では、精神面で追いつかず一度は不合格に。以降、自分が店舗を回す意識を持ち、積極性・主体性を身につけた。社会人は、当事者意識、責任感、最後までやりぬく姿勢がなくては失格。
- ・皆さんへ。何でもいいので、学生時代に頑張ったことを見つけて、第三者に伝えられるようにしましょう。やりたいこと＝向いていることとは限らないので、ひとつの軸から多角的に物を見よう。そして、SPIは必ず勉強しよう。やりたい仕事が見つかったのに努力すればできる試験で足切りされると後悔する。

⑬ 2005年 生活文化学科 卒業生

- ・仕事では、個人では出来ないことにも組織で取り組むことができ、それが社会や人々の生活を支えることが誇り。また、自分には無理と思えた大きな壁を努力や周囲の協力で乗り越えた時に一皮むけたと思う。
- ・仕事で辛いこと、思うような結果が出ずに納得できない時は何度もあった。多忙と辛さに、終電の車中で号泣したこともある。しかし、お金を貰う以上責任は伴うし、嫌でもやらなければならないことは必ずある。
- ・皆さんへ。視野を広げよう。友達の会社説明会にも同行すると、視野に入っていなかった企業が見つかることもある。ESでは、相手によって自己PRをコロコロ変えず、「これが自分だ」ということを、相手に伝わるよう書こう。

⑭ 1995年 英文学科 卒業生

- ・書店に就職したが、配属は経理部門、数年後にはシステム部門へ異動。新人の頃は、生活環境の大きな

変化に戸惑いがあり、学生の頃に思い描いていた書店の仕事と現実が違うことへの葛藤も大きかった。社会人になると思い通りにならないことに遭遇する。その経験が将来役に立つので、発想・視点を変えて取り組みたい。

- ・皆さんへ。仕事や働くことについて考えよう。就職活動でも必ず問われる質問なので、今のうちから考えよう。答えの正誤・良し悪しではなく、自分の言葉で考え、伝えることが大切。

⑮ 2009年 管理栄養士専攻 卒業生

- ・病院実習を通じ、食事の大切さを痛感し、病気で困っている人を目の当たりにして「資格を活かして役に立てる仕事」として、製品を社会に提供できるメーカーを志望。
- ・ルート営業だが、当初は話が苦手でお客様に受け入れて貰えなかった。しかし根気良く通って距離を縮め受注に成功。プレゼンも苦手だったが、「仕事だからやらなくては」と、諦めずにチャレンジを続けて上達した。
- ・皆さんへ。「営業職なんて」と思っていた自分も、失敗を重ねながら少しずつできるようになった。「自分はこの仕事に向いていない」と諦めないで、長いスパンで考え、色々な可能性を信じてチャレンジしよう。

⑯ 2005年 生活環境学科 卒業生

- ・人と話すことが好きで、出会った人を大切にしたい気持ちが高く、漠然と営業向きだと考えていた。実際の営業職は、会社の稼ぎ頭としての責任があり、常に数字を問われ落ち込む時もあるが、前向きに努力を続けていけば結果はついてくる。自分の能力が発揮でき、会社に認められた時、やりがいを感じる。
- ・皆さんへ。仕事を持つことで、社会とつながり、有意義な人生を送ることが出来る。女性も一度は自立して社会で働くべき。働くことも就職活動も、自分を成長させることだと思ってポジティブに取り組んで欲しい。

⑰ 2009年 保育士コース 卒業生

- ・仕事では、思春期の子供との向き合いに苦慮。自分の立場で子供に何が言えるのかと悩んだが、今は「子どもとは真っ向勝負。素の自分で向き合う。」を心掛けている。
- ・児童館がいつも念頭に置くのは、「子供のために何が出来るか」ということ。人員や予算が限られる中、チームワークで取り組むことを大切にしている。
- ・実習に臨む皆さんへ。学生は失敗が許される立場。子どもの命に関わらないことなら、失敗を恐れず、自分を信じて挑戦して欲しい。そして、疑問や戸惑いは気兼ねせずに職員に尋ねよう。

⑱ 2009年 食物科学専攻 卒業生

- ・就職活動では、食に関わる会社を受ける中で自分の肌に合う会社を選択。就職活動で社内を見る機会があったら、「働いている人の雰囲気」「どんな風に働いているか」をチェックしよう。
- ・仕事は辛いこともあるが、仕事を通じ自分の成長を実感できる。また、社員に感謝されたり、取り組みが形になった時に達成感がある。
- ・皆さんへ。まず一歩踏み出そう、自分が一歩踏み出すことで何が見えるか、感じ取れるかを経験して欲しい。また、何か一つのことをやり遂げよう。そして、振り返った時に納得できるよう経験をとことん楽しもう。就職活動では、経験から何を学んだか、どう成長できたかを言えるようにしましょう。

(4) アンケート集計

以下にアンケートの集計と学生たちのコメントの一部を示す。アンケートは授業終了直後に回答してもらい、その場で回収したものである。

前述の通り評価は大変高い。卒業生と在学生在で共通する学科の専門性や、卒業生の話し方や個性等により、多少のばらつきはあるが、毎回ほとんどの学生が「参考になった」と回答している。

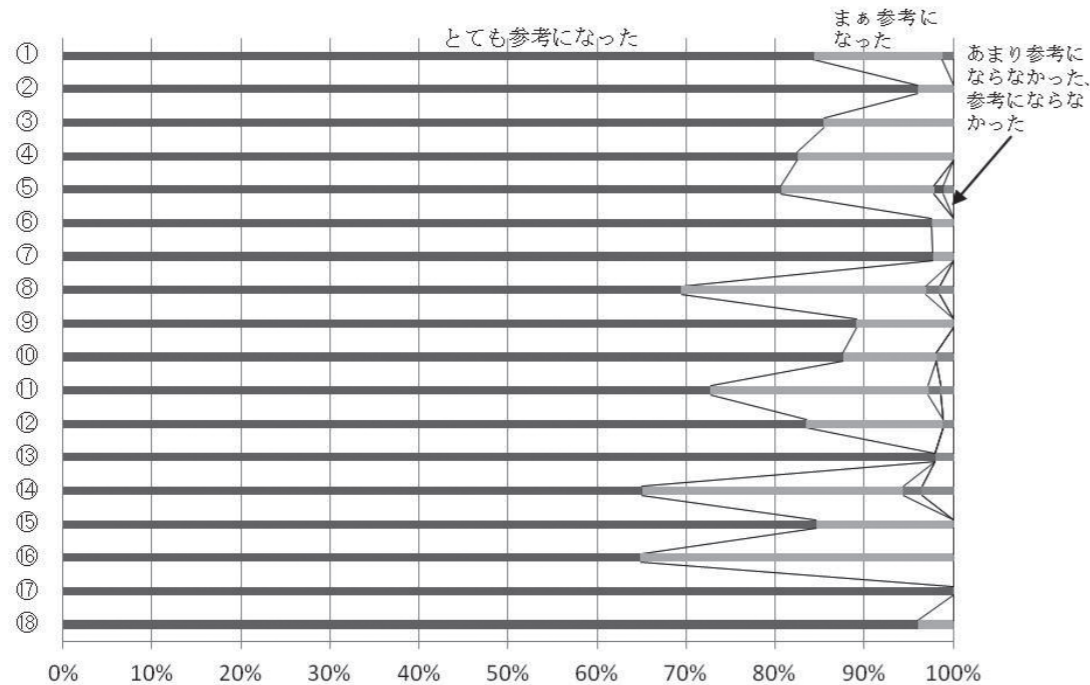


図 1-2：各回授業に対する学生の評価

また、アンケート項目としては、「学生の視点から見た到達目標」を意識し、この授業を受けることで何を一番得たのかを「参考になった点」という表現、選択式で回答してもらった。回答結果では、8割近くの学生が「社会人として働くことのイメージ喚起」を選択した。また、進路選択、就職活動や大学生活の過ごし方についても半数以上の学生が参考になったとしている。

以下のグラフでは、集計結果を参考になった割合の高い順に並べ替えた。尚、「大学生活の過ごし方」は2011年からの追加項目である。

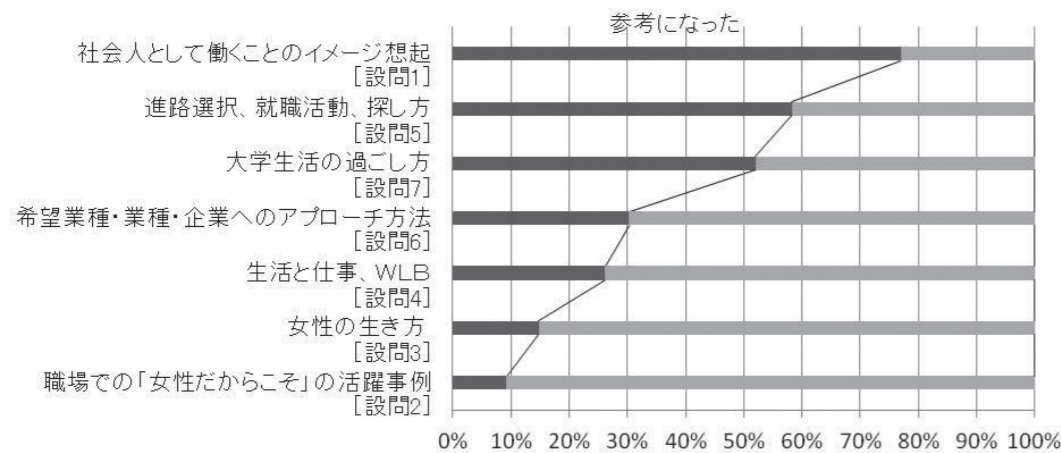


図 1-3：参考になった点（複数選択）

学生たちの主なコメントは以下の通りである。

- ・就職活動や社会人として働くことについて、何をやっていったらいいのかわからず、自分に対して苛立っていたが、今回とても参考になりました。
- ・仕事をする上では、自分から進んで行動することが大切だとわかりました。「販売」と「開発」、どちらも興味があるので、詳しく聞けて良かったです。
- ・自分が今通っているのと同じ大学を卒業された先輩ということで、親近感が湧き、また実践女子大学が企業や社会からどう捉えられているのかというお話や「実践のよさ」について聴けることもよい点だと思いました。
- ・今まで自分が社会人になる姿はとてもじゃないけど想像できませんでした。でも、今日のお話を聞いて、「私もなれるかも、立派に働けるようにがんばろう」という気持ちになりました。
- ・どのように日々の学校生活を送ればよいか、とても参考になりました。就活の具体的な内容が提示されていて、分かりやすかったです。生活とお仕事のバランスのとり方なども、参考になります。ウワサが飛び交う中、具体的な話がなかなか見つけられなくて困っていたので、とてもありがたかったです。
- ・私もバリバリ仕事したいと強く思いました。仕事をすれば、課題や困難もあり、本当にツライと思いますが、私はそのツライ経験を積み上げてみたい、自分はどれだけの力量と持続力があるのかを試してみたいと考えました。就活には、SPIが必須なのだと改めて分かり、SPIの勉強を頑張りたい。
- ・やりたいこと＝向いていることとは限らない、ひとつの軸を持って、そこから多角的に物事を見る。というのが、なるほどと思いました。様々な角度から沢山の職種・会社を見て、自分に向いている仕事を見つけたいと思いました。
- ・「実践は偏差値が低いから…」という考えを持っている友人も多いし、私自身もそのようなことを思うことがある。でも、実践にはこんな素晴らしいOGの方がいらっしゃるし、偏差値云々よりも、その人の人柄や能力次第なのだから、もっと自分に自信を持つとうと思った。
- ・失敗が土台になり、成功につながっているのだと強く思った。質問コーナーでも、今の私たちの悩みについてピンポイントに答えが返ってきて、心の重荷がとれた気がした。みんな悩んでいるのは同じ！私も頑張ります！
- ・私が今日学んだことは、前向きにポジティブに生活するということです。また、一步踏み出す勇気を出す大切さも教えていただきました。大学生活は、まだあと2年も残っています。「今からでも遅くない！私も何かに夢中になろう！！」と強く考えることができるようになりました。卒業しても先輩のように輝き続けたいと思います。

2. アラムナイ DVD

(1) 取り組みの趣旨、目的、概略

「輝く女性たちへ 社会で輝く実践生」をテーマに、卒業生へのインタビューを中心としたDVDを制作した(2010, 2011年)。

第1作目は、社会で重責を担って活躍している卒業生2名と、OG訪問会と同時開催のパネルディスカッションでの若い卒業生からのメッセージ、参加学生へのインタビューで構成している。インタビュアーも卒業生で元日本放送アナウンサーの平田由美氏にご快諾いただいた。(平田氏は現在、短期大学日本語コミュニケーション学科准教授)

このようなすごい人たちも卒業生であり、学生時代には今の自分たちと変わらない普通の学生であったこ

と、また、近い世代の卒業生たちが、学生時代に就職活動をどう動いたか、等、それぞれの立場で後輩達へ心からのメッセージを伝えている。

第2作目は、学生プロジェクトによる制作で、アラムナイテキストとも連動し、28名中4名の卒業生に現役学生がインタビューする内容構成としている。アラムナイテキストと同様に、より身近な存在に感じられる世代を対象に、多様な活躍の場が広がっているということを、学生目線で質問してもらった。

第1作目は、初年次教育「実践入門セミナー」のキャリアオリエンテーションプログラムの授業回や、キャリアセンタープログラムや父母向けのイベントで紹介した。今後も、第2作目も合わせて、キャリア教育科目の授業やキャリアセンタープログラム、父母向けの行事でも活用していく。

以下に、それぞれの内容の詳細について記載する。

(2) DVD「輝く女性たちへ 社会で輝く実践生」Vol.1 (池田氏、齋藤氏、OG 訪問会)

■卒業生：池田 章子氏 (ブルドックソース株式会社 代表取締役社長)

インタビュアー：平田 由美氏

(どうして実践女子を選んだのか)

- ・本を読むのがとても好きで、その姿を見ていた父親が国文科がしっかりしている実践女子を薦めてくれた。また、叔母が下田歌子先生の歌が好きで、とても偉い女性であると尊敬していたので選んだ。
- ・女子大の良さとして実感するのは、グループで一生活き合える友人たちとの関係が今も続いていることだと思う。
- ・学生時代の夢は、大層なものは何もなかったが、その当時は、どこかに嫁いでいくのだろう、くらいのものであった。

(社会人としてのこれまで)

- ・ブルドックソース株式会社に入社した。実家がサラリーマンでなかったのが、サラリーをもらう生活に興味もあった。
- ・採用面接では、6か月くらいは働く、と人事の方に答えてしまった。
- ・そろばんの技能が必要で、女性は名刺が持てない時代であった。接遇等必要なすべてを自分で基本から学んだ。
- ・20歳で入社し、20年目に管理職になった。
- ・社内報の企画・アイデアに興味があり、企画会議に出たい、と強く主張してみたが、当時の上司からは、会議に出てどうするの？という率直な反応があり、正直ショックを受けた。

(人生で大事なこと、後輩たちへのメッセージ)

- ・何もできなかったが、正直にこつこつ努力した。あきらめないで、長く続けてやることはとても大切。
- ・人間の能力は無限にあるので、自分はこうだからとか、できなかったからと決めなで。
- ・自分の殻を破りながら、こつこつと努力して、ステップアップする生き方を。
- ・「実践女子大生は堅実で品格があって真面目ですから、実践女子大生は必ずできますよ。」

■卒業生：齋藤 直子氏 (大和証券株式会社 執行役員)

インタビュアー：平田 由美氏

(どのような大学時代だったか)

- ・当時、大学1年、2年は日野校舎で過ごし、学食で学友とおしゃべりを楽しみ、また、大学4年での旅行なども良い思い出だった。
- ・就職は腰掛、といった時代であり、良い家庭を持ちたいと思っていた。特に、社会に出てああしたい、こうしたい、ということはなかった。そういう時代であった。

(社会人としてのこれまで)

- ・仕事は営業職で、仕事の内容は男性と変わらないが、昇格等は全然違っていた。だが疑問もなかった。
- ・2005年に支店長へ昇進の話があり、チャンスととらえて即断で受けた。
- ・エリアマネージャーとして、かなりつらいこともあったが、成功すれはうれしかった。
- ・支店の経営を任されてからは、管理職として経営の視点を持つことができた。それまで自分が培ったものを、今度は皆のために生かす立場になった。そこがターニングポイントだった。

(これから)

- ・2009年、大和証券で女性初の執行役員に就任した。営業の代表として、支店長の半数は女性が活躍できるような会社になったら良いと夢見ている。
- ・人としてしなやかでありながら、たくましく生きていきたい。
- ・下田歌子先生のDNAが大学でいつの間にか身につけていた気がする。

(人生で大事なこと、後輩たちへのメッセージ)

- ・ビジネスにはチャンスがあり、そのチャンスを自分のものにする力、これを大切に。
- ・謙虚さは大事だが、消極的とは違う。ここはチャンス！という瞬間は逃さず挑戦を。
- ・これまでの社会は、男性の片肺飛行であったが、これからは男女両方の力が必要である。
- ・自分のフィールドをみつけ、そこで自分を生かすチャンスを早く見つけてほしい。

■OG 訪問会

キャリアセンター主催で、在学生の就職支援をするためのOG訪問会の模様を収録した。第1部はパネルディスカッション、第2部は卒業生16名による各企業ブースでの個別相談である。パネリストは、本学の卒業生で人間社会学部非常勤講師の市川 幸子先生を中心に、以下3名の卒業生も登壇し「若手社員に聞く、企業で働くとは」をテーマに意見を交換した。

・OG訪問会 第1部 パネルディスカッション「若手社員に聞く、企業で働くとは」

市川先生	卒業生3名
	・岡 〇〇〇 さん 〇〇〇 食品
	・高 〇〇〇 さん JR 〇〇〇
	・成 〇〇〇 さん 〇〇〇 フィナンシャルグループ

(パネルディスカッションから)

市川 今の大学生の皆さんは3年生から就職活動が始まるが、先輩の皆さんは、どのように考え、動き、今の会社に決まるまでを過ごされたのか？

岡 就職先については、自社の製品に愛着をもって仕事を遂行していく、そういうことができるところで働けたら自分自身のやりがいにもなるし、本当にお客様を幸せにできるのではないかと自分の中では考えていた。

高 自分たちの時代は景気も良く就職も良いと言われていた時期だったが、皆さんと同じように不安は持っていた。だが、そういう大きい壁を越えた時の喜びは大きいし、前向きに取り組んでもらいたいと思う。

成 いろんな会社の説明を一方的に聞くのではなく、実際にそこで働いている人の話を聞くことが大切だし、そういった直接の話を聞ける場に出向くということはとても大切だと思う。

(OG訪問会 参加学生の声；インタビュー)

学生① 先輩方も自分たちと同じように悩んで、それを乗り越えて、内定という切符をいただいたということが良く分かった。今日のお話を励みに頑張っていきたいと思う。

学生② 行動することが大切なんだな、とあらためて感じた。まず、OG訪問や説明会など、行動しようと強く思っている。

学生③ いろんな業界の人たちにお話を聞くことがとても大事だなと思った。今後の活動に活かしていきたい。

学生④ 実際に働いている人の話を生で聞く、というのは、ホームページや企業説明会で人事の方のお話を聞くのとは違って、やはり現実味がある。人事の方相手には聞きづらいことも、OGということで、親しみがあってとても聞きやすい雰囲気があるというのがとても良かった。

学生⑤ OGの方だからこそ、気軽に聞けることもあって、とてもためになった。就職活動が進むにつれて、ご縁がなかった、ということも出てくると思うが、そういう時の切り替えの仕方などが、この先の自分のための参考になった。

学生⑥ 自分と同じような不安を先輩方も抱えていたという点ですごく安心したし、これからは先輩方のようにになりたい、という気持ちで、一生懸命、就職活動を頑張ろうと思う。先輩方全員がキャリアセンターにお世話になった、と言っていたので、これからはキャリアセンターに足を運ぼうと思う。

(OG訪問会 卒業生の声；インタビュー)

高 今、とても就職活動が厳しい時代と言われていて、マスコミ等でもすごく騒がれているので、とても不安に思っている方が多かったように感じた。ただ、このような機会をいただいて、直接、先輩としてお話ができたことで、皆さんが帰られる時に、ちょっとでも不安が取り除けたような、安心したような表情を浮かべていかれたので、お役に立てたのかなと感じ、自分自身うれしく思っている。

第1希望、第2希望とあると思うが、人それぞれに合った企業というのがあると思う。全員が同じ企業を志望するわけではないので、それを見つけるためには、ご縁というものもあると思うが、それは待っていれば降ってくるものではなくて、自分で一歩踏み出すことで、手に入れることが

できるものだと思うので、足をいろいろなところに運んで、自分の目で見て、耳で聞いて、いろいろな感じ取って、とても貴重な就職活動の時期を、自分を一回り成長させられるような良い機会にしてもらえたらいいな、と心から願っている。

成 今は本当に厳しい時代だが、自分に自信を持って欲しい。自分の良さを認めてくれる会社は必ずあると思うので、いつまでもあきらめずにぜひ頑張っていたきたいと思う。

岡 自分のやりたいことが見つけられない、と悩んでいる方が多くいる印象を受けた。ただ、その一方で、自分のやる気だとか、未来へ向けて、自分の興味のあることまではわかっているという学生も見受けられた。もっと学外へ足を踏み出して、いろいろな企業や、人と出会っていただけたら、と思った。就職活動は一期一会で、ひとつひとつの出会いがものすごく自分の糧になる。あまり内に閉じこもらず、自分で足を運んで、企業や、同じく就職活動をしている同世代の仲間たちに出会い、いい刺激を受ける中で、自分の将来の道を決めていただけたら、と思う。諦めなければ、必ず希望の光がある。そのチャンスを逃さないよう行動していただきたいと思います。



図 1-4 : DVD 表紙、OG 訪問会/インタビューシーン

(3) DVD 「輝く女性たちへ 社会で輝く実践生」 Vol.2 (アラムナイテキストから4名)

■卒業生：有 氏 (インストラクター) 2005年 国文学科 卒業
インタビュー：熊 さん (国文学科2年) IV館3階教室にて
ナレーション：鈴 さん (人間社会学科2年)

・大学時代はあつという間で、近代文学の授業がとても好きで、サークル活動も海外遠征をするなど、楽しく充実して過ごした。

- ・サークルの先生の紹介で [] インストラクターのオーディションにもチャレンジして合格した。
- ・現在も、テレビの他、全国各地で地域の方と体操をしている。1万人が集まって体操したこともある。
- ・スタジオもそうだが、地域の方々の温かさを感じながら体操ができ、体操を通じて世代間のコミュニケーションに関われることはとても幸せである。
- ・授業もサークル活動も真剣に取り組めば道は必ず開けるし、みんなを支えてくれる人は本当にたくさんいる。
- ・感謝を忘れずに、自分のやりたいことをしっかりやって、大きく羽ばたいて欲しい。

■卒業生： [] 恵氏 (FIFA サッカー審判員) 1989年 美学美術史学科 卒業
 インタビュアー：根 [] さん (美学美術史学科 2年) グラウンドにて
 ナレーション：谷 [] さん (人間社会学科 3年)

- ・大学時代は、好きなことをやろうと考え、サッカー同好会に入りサッカーの毎日だったが、3年で主将になりチーム作りの難しさや皆がどうしたら楽しめるかを真剣に考えた。
- ・サッカーで交流が広がったし、審判員の仕事もサッカーにずっと関わりたい、というのがきっかけ。
- ・国内審判員や国際審判員も最初から目指したのではなく、好きなのでサッカーをやっていた証としてチャレンジ。考えてみると、資格や経験、年齢等、いろんなチャンスにタイミングが合致して、結果、インターハイや国体、インカレと選手では無理だったが審判員なのでトップレベルの試合に参加する経験ができたし、オリンピック、ワールドカップと数々の思い出をつくることができた。
- ・学生時代は長い人生の中では一瞬かもしれないが、大学4年間を謳歌して欲しい。
- ・就職活動も大事だろうが、それよりも自分に何ができるか、どんな可能性があるか、挑戦して欲しい。思い切り楽しんで、楽しむことでまた新たな自分を発見して、それは社会に出たときに決して無駄にならない。
- ・就職活動ではなく自分探しを、勉強も大事だが、本当に好きなことをやってもらいたい。

■卒業生：堀 [] 氏 ([] CA、ロッジ経営) 2003年 英文学科 卒業
 インタビュアー：山 [] さん (人間社会学科 2年) カルパーラ (カフェ) にて
 ナレーション：石 [] さん (美学美術史学科 3年)

- ・大学時代は語学やアメリカ文学を中心に勉強し、外国人のお客様と触れあえるハワイアンレストランでアルバイトも経験。
- ・テニスサークルにも入り新しい友達、いろいろな友達に出会えた。
- ・卒業後も航空業界への夢を求め、さまざまな仕事を経験し確実にステップアップ、全ての経験が役に立っている。
- ・これまでの仕事や海外経験から、日本と西洋のサービスとその違い、日本人特有の細やかさを再認識した。
- ・人と接すること、サービスが大好きで、いろんな方が家にきてワイワイやって、いつか家が宿になればいい、との夢を高校生くらいから抱き、今シーズンついに実現した。
- ・学生と社会人の違いは、自分が責任をとらないといけない場面に多く遭遇すること。学ぶということは

- アルバイトでも社会でも多い。
- ・実践で学んだことは、自分の頭で考えること、そして自分の意見をもつこと。
- ・大学時代は多くの時間がある。興味のあることをみつけて頑張してほしい。そうすればきっと将来素敵なお仕事につけて、楽しい生活を送ることができます。

■卒業生：北 [] 氏 (音楽療法士) 2008年 生活文化学科 卒業
 インタビュアー：鈴 [] さん (人間社会学科 2年) 多目的室にて
 ナレーション：中 [] さん (生活文化学科 2年)

- ・在学中の思い出の一つは、先生4人と自分1人で、尊敬する先生のお話を聞きに沖縄の幼稚園を訪問したこと。その幼稚園のひとつひとつに先生の教育方針が生きていた。先生との旅行は学生旅行では経験できない広がりがある。
- ・全く分野の異なる音楽教育の大学院に一人進学し、一から学び直し、最初は不安な毎日を送ったが、進学して良かった。知識が広がり、友人が広がり、毎日が充実していた。
- ・音楽療法を通じて障がい児童とふれあい、高齢者の認知症予防、独居老人の社会参加のきっかけづくりといった支援をしている。
- ・音楽療法には大学時代の先生の一言がきっかけで挑戦した。大学や大学院の授業は今の資格や仕事にとっても生きている。
- ・今回の震災の後、避難所や仮設住宅の方々と接し、「来て良かった、来るのが楽しみ」との言葉は何よりうれしかった。
- ・「北 [] といえば音楽療法」「結婚したから今の [] さんがある」と言われるように成長したい。
- ・先生に教えていただいた、下田歌子先生の言葉「家庭は世の海の港なり」が印象に残っている。家庭は私達の人生の基、家庭を大切にしながら家庭で培ったものを仕事に活かしたい。
- ・実践女子大学には色々な授業があり素敵な先生がいる。自分は図書館も好きで沢山の論文や書籍にも助けられた。「授業は何の役に立つの？」と思うかもしれないが、自分は、今の研究にとっても役に立っている。今は「興味ない」と思っても取りあえず授業に踏み込んで、素敵な先生方のお話を聞いて4年間を過ごして欲しい。



図 1-5：学内でのインタビュー、ナレーション録り風景

3. アラムナイテキスト「燦」

(1) 取り組みの趣旨

この冊子「燦」は卒業生28名を3ヵ月間にわたり、職場などを訪問し、インタビューと写真撮影に協力してもらって制作した卒業生から在校生に贈る熱いメッセージである。第1章で紹介したキャリア教育科目(実践キャリアプランニング)の授業では社会で活躍している卒業生を招き、在学生のロールモデルとして色々な観点から語ってもらったが、もう一步踏み込んでどんなキャリアを積み上げているのか、どんな目標や夢を描いているのか、文面から読み取れる社会の生きざまを立体的に感じ取ってもらいたいという趣旨で発刊するに至った。この冊子は2012年4月キャリアプランニングの教材として2年生全員に配布される。

(2) 制作の目的

女性のキャリアは多様で変化に富んでおり、先輩達のその一人ひとりがロールモデルであり、それぞれ自分自身の意思でキャリア描いているのである。一昔前の女性の働き方からは格段の相違があり、自分自身が望み、努力を重ねることにより目標や夢を実現することが可能な時代になったのである。

しかし、昨今の社会情勢は、不透明で先が見えない状況が続き、これから社会に旅立とうとする学生達は、不安と焦りが渦巻いている。この冊子は、このような学生達に勇気と知恵を授け、未来への生き方に夢や希望を与え、社会への第一歩を踏み出す礎になればと考え制作したものである。

この冊子では28名の卒業生の人生の振り返りを目的にしているわけではなく、先輩達のほんの少しの人生を覗かせてもらうことで、後輩達にキャンパスライフを設計してもらうことを目的としている。今回28名の卒業生達に登場してもらっているが、これはほんの一部であり、社会で輝いている先輩達は、もっともっと沢山いることをお伝えしたい。

(3) 冊子の紹介

進むべき道を極めるために

— 思いを時の翼に乗せて、
いまここから、わたしを輝かせてゆく —

■自分のミッションのために

01 1993年 国文学科卒業 兼 (キャリアコンサルタント)

私の願いは、女性と子供のかぎりない幸せ。すべての人が自分らしく生涯を創り生き抜くこと。女性が年を取っても魅力的でいられるためには、知性や配慮がないとダメなのではないかと思ひ、もう



図 1-6 : 冊子表紙

少し自分を磨いていかなければと危機感を感じたのが30歳。自分が魅力的でいるためにはどうしたらいいのか。それは「キャリアアップを図ること」このことが1つのきっかけになり、ファイナンシャルプランナー、マーケティング検定、貿易実務検定、キャリアアドバイザーなどの資格を取得。将来は、独立して子供や女性のために役立つ仕事がしたい。今は「夢」へのスタートラインに立っていて、産みの苦しみの真っ最中。でも勉強の場を与えてもらって感謝の日々です。

02 2008年 生活文化学科卒業 北 (音楽療法士)

音楽で認知症患者のコミュニケーションを支援する音楽療法士の仕事

音楽療法士の仕事は患者さんの「何事もすべて受け入れること」が大切。そこが音楽教育と違うところです。何があっても、全部その人から出てきた反応だと思って受け入れ、それから自分がどうするか考えていくことで先に繋がります。療法中にスリッパで顔面を思いつき叩かれたこともあります。でもそれがチャンスととらえ、むしろいい反応なのかもしれないのです。それを「笑顔」で受け入れ、これからどのようにケアしていくか考えることが私の仕事なのです。患者さんの前向きな気持ちが本当に嬉しい。

03 2008年 人間社会学科卒業 岡 (郵便局)

地域に密着した郵便局で、お客様と信頼関係を築き、実績を高めていく楽しさを実感

地域密着型の郵便局は、お客様との信頼関係を築くことが大切です。最近是指名してもらうことが多くなり、自分の励みになっています。その信頼が保険の営業や実績にもつながり、やりがいを感じています。今、入局4年目になり、ようやく周りのスタッフを引っ張っていけるようになって、私がどのようにしたら皆が働きやすい環境を作れるかを考えたり、自分の実績だけでなく周りの皆が実績を上げながらいい仕事ができるよう、試行錯誤しています。郵便局は女性が働く場所としてはとても環境がいいところですし、キャリア的にも「ステップアップ」しやすい職場です。

04 2003年 食生活科学科食物科学専攻卒業 木 (高校)

母校、実践女子大学で受けた人間教育をいま教え子たちに伝授しています。

教員にならずずっと思っていることは、「子どもは皆同じではない。人間だからそれぞれに距離感が違い、踏み込んでいいところとそうでないところを見つけてあげないといけない。子どもということで、ひと括りにはせず一人の人間として向き合う」ということです。私は学生からいきなり教員になることに疑問を抱き、企業から教員に転職。いま、企業での経験が生きていることが沢山あります。営業の仕事をしていたので、人の観察、名前を記憶することは得意です。年々子ども達との年齢差がでてきますが、距離感が変わらない教員でいたいです。

05 2008年 生活環境学科卒業 熊 (工房)

“人とのコミュニケーション”が核心になる。夢は女性プロデューサーです。

CM制作をはじめとして、どんなクリエイティブな分野も男女の性差はありません。センスとガッツがあればチャレンジして欲しいです。今、入社して4年目ですが、1・2年目の頃は転職のことばかり考えて逃げの姿勢でした。仕事がきつくて、全然寝る時間がなくて…でも今はそのときの蓄積が徐々に自信に変わり、やりがいが変わってきています。将来の進路は2つの思いが…1つは結婚して家庭を持つこ

と、もうひとつは仕事を続けて女性プロデューサーになりたいというキャリアの道。今は、いろんな仕事を積極的にやらせてもらっていますので、とても楽しいです。

06 2004年 生活文化学科卒業 広 (エナジー)

人とのつながりを大切にして、これからも仕事をしていきたいですね。

卒業して3年間働いていた会社から、今後の自分のキャリアを考えて転職。前職で培った人事職と大学で取得した「認定心理士」の資格を活かし、社内のメンタルヘルスの分野も担当、これから産休に入り約1年間休職。産休明けには復職してまた、人事の仕事に戻りますが、母親になることで自分が成長して、仕事の上でも深みがでるといいなと思っています。産業カウンセラーなどの資格を取得して、もっと会社に貢献したいと考えています。「人とのつながり」は自分にとって財産ですし、自分自身をもっと磨きたいです。

07 2002年 生活環境学科卒業 萩 (ス)

自分の直感を信じて就職。おもてなしのレシピでオリーブオイルの真価をご紹介します。

「この会社で色々なことが出来るのでは・・・」という殆ど直観的な選択で就職を決めました。入社してすぐに店長、年齢的に余りにも早すぎた役職で数字的な部分も含め、店全体を見なければならなかったのも、とても辛い思いを経験。努力を重ねてもあまりうまくいかない事も多かったのですが、会社のイベントで「社長賞」をいただいたことが励みとなり、努力することで充実感に繋がっていきました。2010年に結婚して家庭を持ち、今後、育児、仕事との両立など不安は沢山ありますが、バランスをとりながら出来るところまで行こうと思います。

■組織の中で自分を生かして

08 2004年 英文学科卒業 鴨 (省)

長く働けて専門性が高い国家公務員職を選び、やりがいを感じています。

就活のころ、企業訪問や説明会では、やりたいと思う仕事が見つからず大学3年の春に公務員になることを決意。自分も長く働きたいとの意識があり猛勉強、2年間は遊んだ記憶がないほど勉強して、国家公務員Ⅱ種に合格。現在、 で働いています。公務員は様々な部署を担当するという方針があり、今4つ目の異動を経験して に関係するシステムに関わっています。大変さもありますが、とても遣り甲斐があり、今は面白さを感じ充実。自分にとって仕事は、成長するためのもので生きがいでもあります。結婚して家族を持ちたい、でも本省の仕事も極めたいという2つの気持ちがあり、葛藤です。

09 2008年 生活文化学科卒業 野 (J)

社会と他者のためにお役に立ちたいと思い、社会貢献度の高いインフラ企業へ。

入社当初は技術系開発本部での業務。人事異動により秘書部へ異動になり偶然にも自分の夢が叶えられ、今はとても遣り甲斐を感じています。一人の方を「プロデュースする」「お世話をする」という仕事は自分にとって充実していて、仕事を通して受ける影響は自分の成長の糧になっています。役員の方がどうという性格なのか重要で、そのことでスケジュールの入れ方や対応が異なります。役員の方々の仕事の

内容を把握して、スケジュールに沿って私が動くので時間管理の工夫が大切な仕事です。女性が少ない職場ですが、結婚し、出産しても復帰しやすい制度が整っていて仕事と家庭、育児を両立したいと思っています。

10 2007年 英文学科卒業 依 (ス)

“緑の下の力持ち”として、設計室42名のすべてをささえています。

東京設計室の42名の総務、経理、人事の業務を1人でこなしています。私はこんなに頑張っているのになかなか評価されない地味な仕事・・・ある日、先輩から「あなたの頑張りを絶対わかってきている人がいるから、心ない言葉に負けずどっしりと構えてほしい」との温かい励ましの言葉をもらいました。入社5年目を迎え、多くのことを経験し、試行錯誤しながら今では自分なりに提案も出来るようになり、人や仕事を支えるという意味がわかってきました。自分を励ましてくれた友人の言葉「神様は乗り越えられる人にしか試練を与えない」本当に前向きになれました。

11 1993年 英文学科卒業 角 (テレビ)

置かれた環境を受け入れ、柔軟に変化できる生き方を。

アナウンサー時代は、沢山の壁にぶつかり自分の不甲斐なさを感じていました。画面に出るのはアナウンサー、でも1つの情報を提供するのにも多くのスタッフが動いて初めて成り立つ仕事。アナウンサーが失敗をすると取り返しのつかない事が沢山あり、葛藤の日々でした。その後、宣伝部に人事異動になり、テレビ番組に関するすべての宣伝を担当しています。でも入社当時から自分の信念は変わっていません。人に「何かをしてあげたと思うな」相手はしてもらっているつもりはないから。自分が一番働いて損をした気分になるかもしれないけれど、それで周りがうまく回るのならそれでいいじゃない。

12 2007年 英文学科卒業 永 (ン)

「へこたれず、常に前向き」を信念に、“自立”で乗り切る仕事のいま。

就職活動では企業から、夢みたいな情報ばかり、入社したら社会は社会。大学のように面倒を見てくれるわけではないし、自分で何とかしなければならぬ事が多いし、訳がわからないで怒られるし、こっそりトイレで泣いて・・・社会人5年目になり、仕事が自分を成長させたくれたと思います。自分自身の判断力をつけるために「根拠」を探ることや判断のよりどころとなるものを自分で探すことが、今、仕事に対する自信に繋がっています。さらに保険の知識も深め、皆さんのお役に立つことができれば嬉しい。

13 2009年 人間社会学科卒業 佐 (ブライダル)

結婚式の感動を創造し共有できるブライダル・ドレススタイリストという仕事。

ドレススタイリストと言うと「わあ、すごい素敵な職業ね」華やかですごく素敵な仕事とイメージを持つかも知れません。しかし、この仕事がこんなに力仕事とは・・・1着のドレスはかなり重たく、それを抱えて走り回るので体力勝負。仕事の達成感は「感動」です。感動を創造するプロデューサーと思えた瞬間にこの仕事を選んでよかったという思いがあります。出産から復帰して半年、母親としての責任、仕事と家庭の両立、模索中の日々ですが、「何とかなる」とポジティブな気持ちで陰の力持ちをしています。

14 2000年 美学美術史学科卒業 金 (市役所)

人のために何かできることを仕事にたくて、市役所の職員の道へ。

市役所に入職して11年目。役所の仕事は前例主義と言われていますが、社会情勢が突然変わると、仕事の内容もそれに対応し進化していきます。それに自分で考えたこと、行ったことが市民の幸せになって還元されるこの仕事はとてもクリエイティブです。職場は、数年ごとに異動があり、異動の先々で知識を吸収し、知識や経験を生かし市民の方と共に考えていく仕事なので、常に自分の考えを持つことが必要です。自分の業務をどうやって「市民の幸福」として還元していくかを常に考えていられる職員でありたいと思っています。

望みを確信とするために

一心の声に忠実に、さらなる目標へ、わたしを輝かせてゆくー

■自分のミッションのために

15 2005年 国文学科卒業 有 (会)

“体操で人を幸せにしたい”を信念に。夢は世界にラジオ体操を拡げること。

体操のインストラクターをして9年。体操は3名で体操をしますが、今までに3人がピタッと合った体操は一度もありません。視聴者の方は息が合っているように見えますが、スタッフの一人ひとりの性格、育った環境、物事の捉え方、背の高さも違う中で、共感できる動きや考え方を纏めるにはすごい作業です。「体操」とは皆を幸せにできるコミュニケーションツールと思います。私が楽しく体操をやっているならば、その波長が人に共振となって楽しく伝わり、また次に伝わり広がっていきます。それが皆を健康にできる手段の一つ。体操の歴史はかなり長いですが、もっともっと広がって、一人ひとりの健康に繋がればこの上もない遣り甲斐を感じます。

16 1997年 美学美術史学科卒業 佐 (美術館)

面白いと思う前向きの気持ちが自分を引っ張る！将来は江戸美術の研究者を目指して。

勤務7年目に初の自己企画をさせてもらってから、企画に参加するたびに試行錯誤の連続。非常勤職員の身分でも展示会の2ヵ月、3ヵ月前から全然お休みなしで、安全に無事に開幕させることができるのなら、なんでもするという感じです。「本当に私で出来るのだろうか？」不安の方が7、8割であとの2、3割が「それでもなんかやってみたい」「これは面白い」という前向きの気持ちが自分を引っ張っているのです。今やっていることに仕事という意識はあまりなく、自分で追及して成長できるという意識が強く、いつか研究者の仲間入りができればいいと思っています。

17 2003年 英文学科卒業 堀 (航空)

私が目指すキャビンアテンダントのサービスは「日本のおもてなしの心」

英会話学校で元CAの先輩に遭遇したことをきっかけに「夢のまた夢」だった客室乗務員に転職。先輩から「夢は諦めなければ絶対に叶う」「諦めた人だけが叶わない」という名言に触発され、航空のCAを務め、現在航空に勤務。フライトで心にとめているこ

とは、「1人の乗客の方とは沢山のお話をする事」「要望はなるべく断らないこと」「日本人特有のおもてなしの心」。自分は本当にCAの仕事が好きで苦に思ったことはありません。今年10月に結婚して、主人と二人で長野県白馬村のロッジの経営をしながら、CAとの両立をしています。

18 2006年 国文学科卒業 高 (コ)

“品格高雅。自立自営。”をミッションに、常にプラス思考で。

大学を卒業して8年目になり、この間に2度の転職を経験。最初の会社はITのベンチャー企業で、自由な社風に魅力を感じて入社、その仕事は想像を絶するほど大変なものでした。「お客様が喜ぶ企画書を創れ」と言われ、いつも夜中の2時、3時まで一人でデスクで泣きながら、パソコンと向き合っていました。でもそれを乗り越えるきっかけになったのは大手ビール会社のコンペに勝って受注に成功したこと。仕事は自分がその仕事に対してどれだけ向き合い、集中できるか、「できない」を乗り越えることが自分の成長に繋がる実感があります。いま、全力投球で仕事をしています。

19 2006年 生活環境学科卒業 藤 (内装デザイナー)

インテリアデザインは、唯一私の人生を掛けられる仕事。

最初に入社した会社は、内装設計を手掛ける会社でモデルルームの内装や展示会のブース作りをする小規模な会社でした。色々な仕事を担当。ここで思いをカタチにする能力を養うことを修得。さらに仕事をする中でプランニングに興味を持ち、転職を決意。コンペで勝つための小手先を重視するようなデザインではなく、「このデザインはこういう理由があって、だからこのデザインなんだ」それを納得させるプレゼンテーション能力を高めたいと次の会社に転職。今は結婚退社をしてフリーランスですが、退職当時は「なんで結婚と出産でキャリア奪われなくてはならないの」と思いましたが、フリーになった今、会社の枠組みに縛られない仕事に楽しさを感じています。

20 1989年 美学美術史学科卒業 恵 (FIFAサッカー審判員)

日本初！FIFA国際サッカー連盟女子審判員を歴任

1995年のFIFAの女性審判員として日本人初第1号。その当時、世界全体で女性審判員は50数名くらい。その年の世界選手権大会(ワールドカップ)にすぐに副審として起用されたのはとてもラッキーでした。自分はワールドカップのレフェリーに行きたいというより、「より高いレベルのサッカーにトライしたい」という思いです。高校生の試合をやるときの気持ちもワールドカップの試合の気持ちも同じで、自分が蓄積したものをどのようにしたら全部出せるかをいつも考えて試合をしています。選手のレベルは違うかも知れませんが、試合をするということは同じ気持ちで取り組みます。

■組織の中で自分を生かして

21 2006年 食生活科学科食物科学専攻卒業 岡 (食品)

「夢」は自らが企画開発した商品をお客様に買っていただくことです！

入社当時は人事部配属。「食品に関わりたくて入社したのに」という思いがあり、正直葛藤がありました。石の上にも3年、希望を持ち続け念願の開発に異動。自分の創った商品を売り場に並べたいというのが就

活当時からの夢でした。開発の仕事は、自分が提案したテーマを自分で開発していく仕事ですが、当初は却下の連続。却下されてもめげずにどんどん新しい企画を提案してひと月に15個くらい出します。提案をしないことには仕事が無くなくなってしまいます。自分がイメージするものを自ら実験・試作・試食する日々ですが、これが仕事の醍醐味なのです。いい商品を「お客様に提供して喜んでいただくこと」が夢です。

22 2008年 人間社会学科卒業 若 (プレス)

前任スカイキャストの使命は、「いつでも安全にお客様を目的地までお運びすること」

今、入社4年目になり、試験を受け念願の正社員になりました。「前任客室乗務員」(チーフパーサー)資格も取得。試験は筆記テスト、救難・緊急時の脱出訓練など安全にお客様を目的地まで運ぶ使命ですので、厳しい審査が行われます。フライトの時は搭乗口の一番前でお客様をお迎えします。チーフパーサーの仕事は他のスタッフと良いコミュニケーションがとれるような雰囲気づくりをしなければ、それがお客様に伝わってしまうので怖いです。お客様とは一期一会、知識、経験を生かして接することなのです。

23 2008年 食生活科学科食物科学専攻卒業 齋 (ス)

壁にぶつかっても、最後までめげずに責任を持ってやり遂げる。

入社以来3年間、大手居酒屋チェーンを担当。新入社員の教育が終了後、すぐに配属されました。学生気分など2、3日で抜けてしまい、がむしゃらにやらないと仕事が先に進まない、という危機感があり、わからないながらも自分なりに考えてやってきました。今はその貴重な経験が糧になって、新しい仕事でも感覚的に予想ができ、仕事の段取りも組めるようになり、今はお客様が信頼を寄せてくれるようになってとても嬉しいです。さらに経験を積んでキーマン的な人材になることが目標で日々、吸収、学び、自分の中でアンテナを持って仕事をしたいという思いがあり、経験を積んで役に立つ人になりたい。

24 2010年 生活文化学科幼児保育専攻卒業 岡 (学園)

子どもの成長と共に自分も成長していけるのが保育士です。

保育士という仕事に憧れて、就職した保育園。2年間ですが、こんなに素晴らしい仕事はないと思っています。子どもの成長を見守り、園児たちが頑張って成長していこうとする姿はとても素晴らしいし、勇気をもらえます。 保育園ではモンテッソーリの教育(見守る教育)をして、子ども達が自分でできる力を信じて最後まで見守ることを大切にしています。いま、取組んでいるのは、子ども達の年齢に応じた「運動開発」。子どもたちが園の中でも転倒することが多く、幼少時からの筋力アップが必要で遊びの中で取り入れられないかと研究中。

25 2008年 食生活科学科管理栄養士専攻卒業 蟹 (グループ)

女性が一つのところで、ずっと「一生懸命働く」社風に共感して入社しました。

管理栄養士として就職先を委託会社に選んだのは、いろいろな職場を経験できることに魅力を感じたからです。介護老人ホーム、病院の食堂、老人介護施設など3カ所を経験。どの職場でも施設に常駐する栄養士さんと常にコミュニケーションを交わし、利用者さんの一人ひとりの健康の状況を確認することが大切な仕事。ミスをなくすために細かな1つ1つが大切。月2回は施設の職員さんと給食委員会を開いて評価をもらいます。季節に応じた食事の工夫をすることや利用者の方々に食事を楽しみながら健康に過

ごしてもらうことを心がけています。

26 1997年 生活環境学科卒業 恵 (ド)

まじめは必ず報いられる。

入社して14年目。衣料管理士として、「会社の品質の基準」を作る部署でバック、靴などの品質基準にも携わっており、設計工程から基本創りをしています。最終的にはお客様からの意見でさらに分析します。入社当初から先輩達がとても厳しく2ヵ月目にはお客様からの問題点指摘で鍛えられ、半年後には100件以上のクレームにも対応。先輩から対応のマニュアル作りはするなと言われ、仕事は体で覚えろと教えられました。今、皆から情報の引き出しが多いと言われます。これも先輩から厳しく教えられたことが生きていると感謝しています。今もネットからの情報ではなくキチンとした文献を拾うことを意識して、専門性を高めています。

27 2007年 食生活科学科管理栄養士専攻卒業 玉 (保育園)

夢は「食育」ができる栄養士として、子供たちに食事の大切さを伝えていくことです。

子どもが好きだという気持ちで保育園の栄養士になりました。でも、何十人もの園児を相手にしながら、それを纏めることは容易ではありませんでした。園では、栄養士でも子どもの中に入って一緒に遊ぶことは顔も名前も覚えますし、子どもの個性がわかるので食事を作る際も気持ちがより入るという方針。現在、園では食育教育にも力を注いでいて、栄養士としてただ献立をたてるだけではなく、野菜などは園児たちと一緒に育て、触れたり匂いを嗅いだりして収穫。子どもたちが「食」について興味を持ち「好き嫌い」がなくなることに繋がっていることはとても感動です。

28 2008年 食生活科学科管理栄養士専攻卒業 中 (ー)

赤ちゃんが喜び、お母さんが安心して与えられるベビーフード食を追究。

いま、ベビーフードの商品開発の仕事をしています。チームが担当するカテゴリーは100種類。ふだんは鍋、木ベラで調理をしながら、工場で大量生産したときと同じものが作れるかどうか、調整していくことが大切な仕事です。離乳食開発は専門的なことが絡んでくることが多く苦労もありますが、いい提案だと商品になりやすいので恵まれています。私が手がけた「桃と白ぶどうのジュレ」はヒット商品になりましたが、食品添加物の力を借りず作らなければならないので素材の力を信じ、試行錯誤を繰り返して、とても苦労しました。赤ちゃんが喜ぶベビーフードを作り続けていきたい。

(4) 取材を通して

取材した28名の卒業生たちは、本当に輝いていると思った。冊子の表題「燦」そのものである。しかし、ここまで来た道のりは、そんなに生易しいものでなく、苦労の連続であったに違いない。上司や先輩に怒られ、お客様からお叱りをうけ、誰にも言えず人知れず涙にくれたことも話してくれたが、インタビューの中では、それを乗り越えた力強さと自信を感じた。「外柔内剛」とも表現される実践生は、困難も乗り越えて明日に向かって頑張ろうという気持ちが素晴らしい。それは、母校で培った「品格高雅」「自立自営」という精神なのかも知れない。まだ、人生の半分にも満たない道のりを歩いている卒業生たちが取材に応じて、仕事、結婚、出産、子育てのことなど、山あり谷あり平野ありの人生を悩みながら進んでいく姿を肩の力を抜いて、生々しく語ってくれた。取材のため訪問させていただいた多くの企業からも実践生は「真面目で勤勉、思いやりの心がある」とのお褒めの言葉をいただいた。

第2章 就職支援（キャリアセンタープログラム）

本学では2004年4月、キャリアセンターを開設して以来、学生と卒業生を結ぶネットワークを構築し、将来のキャリアビジョンの確立を目指すため、「目標実現のための実践力の形成」を目標に掲げてきた。さらに、2009年文部科学省学生支援推進プログラムの採択を受けて、初年次教育、キャリア教育プログラムと実践アラムナイネットワークを連動し、全学的な「学びの質の向上」を図ることとなった。第1章では初年次教育、キャリア教育をどのようなプログラムで展開し、学生にどのような成果を期待しながら取り組んでいったかなどの成果を報告したが、ここではキャリアセンターが実施した課外プログラムを紹介して、その効果を検証しながら今後の方向性を探ることとする。

1. 学生支援推進プログラムの紹介

1990年代半ば以降、日本における若者達の社会的地位が、急速に地盤沈下したのである。フリーター、ニート、ひきこもり、ワーキングプア…。社会のメイン・ストリームに参入できずに周辺のポジションにとどまり続ける若者達が増えてきた。この社会的変化は、1990年代前半に日本経済が失速し、景気が後退した結果、多くの企業が業績を悪化させ、雇用戦略の転換をせざるを得なかったのが要因である。若者達の労働市場は急激に冷え込み、否応なしに非正規労働者になっていかざるを得ない状況は社会的構造から生まれてきたものである。「学校から仕事への移行」のプロセスは、大きく変化し、恒常的就職難を生み出した。

このような社会的背景からキャリアセンターでは「実践力」と「就職力」を醸成するために、また、就職率アップに繋がる講座開講を目指し、学生支援推進プログラム事業の助成を受けながら、学生のキャリア支援の一助となる各種セミナーを開講した。

ここに掲載するのは、卒業生と在学生をつなぐ実践アラムナイネットワークと連動したセミナーである。

(1) 就職懇談会（2010年度よりOG訪問会に改名）

■目標

卒業後3～5年の卒業生を本学に招き、後輩達へ就職活動へのアドバイス、業界情報、勤務先の会社情報や採用計画などを話してもらう。また在学生は卒業生と親密な接点を持つことで就職への意欲の向上と社会で働くことの意義、厳しさを実感しながら先輩と後輩の絆を深めることが目標である。

■双方向のメリット

年齢の近い身近な卒業生と接する中で、小さな悩みを聞いてもらえるというメリットは大きい。就活生にとっては、同じ悩みを経験した先輩に接したことで「自分だけではない」という自信に変えることもある。また、卒業生にとっても後輩の前で話すことにより、仕事に対する自信と誇りを持たたという感想もあった。双方向のメリットと考えられる。

表 2-1：就職懇談会参加状況（2009～2011年度）

開催日	OG参加者数/ 参加企業数	参加企業（順不同）	学生数（参加率）
2009年 12月12日	16名/16社	三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ、日本航空、JR東海、学校栄養士（公務員）、西洋フード・コンパスグループ、日本アクセス、らでいっしゅぼーや、明治、キューピー、損保ジャパン、三井生命保険、ゼンショー、アイテム、郵便局	164名 (18%)
2010年 12月11日	16名/15社	エームサービス、近畿日本ツーリスト、サコス、JTB首都圏、ディスコ、住友電気工業、積水ハウス、デリア食品、JR東海、東京センチュリーリース、マルハニチロ食品、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、みずほインターナショナルビジネスサービス、DHC	105名 (12%)
2011年 12月10日	14名/14社	LIXIL、近畿日本ツーリスト、住友電気工業、ディスコ、デリア食品、小田急電鉄、東京銀兼、浅沼組、松田産業、みずほフィナンシャルグループ、郵便局、朝日信用金庫、住友生命保険、DHC	110名 (11%)

■OG訪問会アンケート結果

① 学生へのアンケート

3カ年にわたり参加学生にアンケート調査を実施したが、内容の差異は見られず、2009年度のものを記載した。

就職相談会感想

・とてもよかった	115名 (70%)
・まあまあよかった	19名 (12%)
・ふつう	8名 (5%)
・あまりよくなかった	0名 (0%)
・無回答	22名 (13%)

パネルディスカッション感想

・大変参考になった	118名 (67%)
・参考になった	29名 (18%)
・ふつう	8名 (5%)
・あまり参考にならなかった	0名 (0%)
・無回答	17名 (10%)

② 卒業生へのアンケート

学生からの多く寄せられた質問（抜粋）

- * 会社を志望した理由
- * 自己分析の進め方
- * 会社概要について
- * エントリーシートの内容について
- * 業界のしぼり方



図 2-1：就職相談会風景（1）



図 2-2：パネルディスカッション風景

- * 就活の進め方
- * 現在の仕事の内容
- * 面接の雰囲気について
- * 総合職と地域職のメリット・デメリット
- * エントリー数はどれくらいか
- * 学生生活で頑張ったこと
- * 自分のアピールポイント



図 2-3：就職相談会風景（2）

卒業生の感想

- * 「就職活動」をしなければという焦りがあるが、いま、何をすべきか、どのように行動したらよいか、悩んでいる学生が多い。
- * 自己分析が進まない悩みが多い。
- * 就職活動について「点」で捉えている学生が多い。

■成果

ロールモデルとしての先輩は、在学生在がキャリアビジョンを描く上で大きな存在となった。女性には生き方のモデルはいないと言われるほど多様な生き方があり、社会で輝く女性をロールモデルとして在学生在達は先輩の生き方やその多様性を学び、多くの選択肢の中から自分の将来の夢や目標をオーバーラップさせる一助となった。

(2) キャリア塾

キャリア塾のスタートは2004年秋からである。現在のような全学必修のキャリア教育科目が開講されていない時代に、「女性の生き方と働き方」などの講演内容で社会で活躍して輝いている先輩を招き、学生時代のこと、就職活動のこと、社会人としての体験談、これからの夢などを語ってもらい、在学生のキャリアデザインの一助とした。

表 2-2：2009 年度開講「キャリア塾」

回数	開講日	講師	参加者
第1回	10月22日	〇〇会社 〇〇研究所 山〇〇氏 (2007年3月管理栄養士専攻卒)	36名
第2回	11月5日	株式会社 〇〇事業部 田〇〇氏 (2003年3月生活環境学科卒)	16名

■成果

第1回目は、乳児用粉ミルクの開発をしている研究者であり、学生にとって非常に興味深かった。食生活科学科の学生には、数少ない研究職の仕事について知る機会となり、視野拡大に繋がったと思われる。同時に本学を卒業した場合にどのような研究職に就けるのか非常に興味を示した。特に開発中の「固形ミルク」の溶解実験を行い、商品開発をした先輩に対し畏敬の念を持った。

第2回目は、学生達にとって憧れの企業でもあり、非常に受験倍率の高いことでも知られている。特にどのようにしたら入社出来るのか「就職活動のノウハウ」について質問が集中した。学生は先輩の社会での体験談などから社会に出る厳しさと勇気もらった。

2010年度・2011年度は全学必修キャリア教育科目が開講され、卒業生参加型の授業を実施したため、キャリア塾は短期大学で開催した。



図 2-4：キャリア塾風景

(3) 学内企業セミナー

毎年恒例になった学内企業セミナーは、大学3年生対象に実施される。2008年リーマンショック以降の厳しい就職状況に伴って、学生の参加数もかなり多くなった。100社を超える企業の人事担当者によるこのセミナーは、今まで知らなかった企業と出会う機会でもある。厳しい就職戦線のなか、女子大生を採用したいという意欲のある企業、特に先輩達が活躍している企業、内定実績がある企業が来校し、いい縁を掴むチャンスである。最近では本学の卒業生が企業の人事担当者として参加してくれることが多くなった。

表 2-3：企業セミナー 開催状況

開催日	参加企業数	参加学生数(延人数)	業界
2009年度 2月5・6・8・9日	115社	約2,500名	食品、出版、広告、金融、IT、ホテル、ブライダル、アパレル、保険、流通、商社、化粧品、他多数
2010年度 2月7・8・9・10日	103社	約1,400名	
2011年度 2月7・8・9・10日	108社	約1,600名	



図 2-5：学内企業セミナー風景

(4) 父母のためのセミナー

就職活動の期間が長期戦となり、採用までのステップが複雑になった昨今では、親のサポートは欠かせないものである。「娘の就職活動に親が口を出すなんて・・・」という考え方は、現在では通用しなくなっており、親の支援や助言が欠かせないのである。本学でも2007年度から「父母のためのセミナー」を開催し、毎年100名以上の父母が参加している。学生達が社会に出るにあたって大きな試練となる就職活動の現状を知ってもらい、もっと娘とのコミュニケーションをとって欲しいというねらいがそこにはある。

親世代の就職活動と言えば1970年代、就職をしたくなれば、特殊な業界以外は誰でも正社員になれた時代である。現在では、社会情勢や採用側の構図の変化により、正規雇用と非正規雇用の割合が6:4になり、正社員になる難しさは誰しも感じているのである。あまりにも違う親世代との就職活動・・・親としてはこれをどのように受け止めてよいかという不安な声に少しでも力になりたいと始めたのが今年で第5回目を迎える「父母のためのセミナー」である。

その内容を紹介する。

表 2-4：父母のためのセミナー 開催内容（2009～2011年度）

開催日	内容	講演者	参加者
2009年度 3月13日	第一部 講演 「2011年以降の採用状況と企業が求める人材」 “今、親ができることは何？就職活動中の子供との付き合い方” 第二部 パネルディスカッション 社会人2～3年目の卒業生からのメッセージ “社会人になって感じたこと、就職活動におけるご父母のご支援”	(株)学研メディコン 大西純一氏 卒業生 3名 在学生 5名	約190名
2010年度 3月12日	東日本大震災のため中止		
2011年度 3月10日	第一部 講演「親子で考える就活」 第二部 キャリアセンターの支援について	(株)マイナビ 柳井 章氏	約144名

■成果

親は自分の価値観を押し付けるのではなく我が子が迷った時や悩んだ時に、いつでも傍にいる存在であって欲しい。それは放任でも無関心でもなく、過干渉、過保護にならない就職活動支援である。親に求められている役割は、就職活動の中で子供がどのような悩みを抱え、どこで困るのか理解し本当に役立つ、親にしかできないサポートをすることと理解してもらったことが成果である。



図 2-6：父母のためのセミナー

(5) プレ社会人セミナー

■目的

就職活動が終了した内定者に対するフォローとして「プレ社会人セミナー」を実施した。特に内定時期が早い学生にとっては社会人となるまで約1年間の学業期間がある。社会人として巣立つ不安や心構えなど在校中にアドバイスがあれば自信を持って実社会に出ることができるといった考えから開講した。

また、昨今の経済低迷など厳しい社会情勢の中をどのような職業観を持ちキャリアを積み上げていか、大学として最後に教えられることを伝えたい。これが企業での新人教育と連携すれば理想である。

表 2-5：プレ社会人セミナー 開催内容（2009年度）

開催日	表題	内容	講師
2009年2月27日	第1回プレ社会人セミナー	輝く社会人になるために	流通科学大学 教授 金田 肇

■今後の開講

この講座は第一回のみで休止になった。それはその後、就職状況が厳しくなり、セミナー開催時期にも未内定者がかなりおり、それらを配慮してである。その後、継続開催が難しくなったが2013年（平成25年）から、オープン講座（単位制）の中で「プレ社会人教育」を開講することが決定している。

2. 就職支援対策

(1) SPI 試験対策

2009年度より3年生全員を対象に採用試験対策模擬テスト（SPI）を無料で実施している。さらに、2010年度より2年生全員をも対象として学生支援推進プログラムの中に組み込み筆記試験対策として模擬テストを行った。

■目標

特に本学では非言語の問題を対策に力を入れる必要があり、「苦手意識からの脱却」には基礎的な練習問題を繰り返し行うことが方策である。未解答を減らし、諦めずに問題を解く姿勢とそのモチベーションの醸成を目指すことを行った。

また、キャリアセンターで実施する夏期集中講座、春季特別講座などのプログラムの中にSPI対策講座を開講し、実力の向上を図った。

表 2-6：SPI 模擬テスト参加率 4月実施 大学2年生対象

開催年度	国文	英文	美学	管理	食物	環境	生文	幼保	人社	合計	参加率
2010	147	139	103	92	87	95	55	48	146	912	94.8%
2011	148	142	101	68	78	103	48	50	171	909	92.2%

■今後に向けて

2012年度から大学1年～3年までの全学年にわたり、無料実施を行うが、この2カ年において個々の実力向上に効果がどれくらいあったかは把握できていない。

企業でどう評価されるかについては、非言語系では、本人の思考プロセスがどれくらいできているのか、などの判断材料として活用される場合もある。しかし、殆どが応募者の人数調整のために行われるので、個々人のレベルで自身の試験結果を見て、弱点をカバーしていく自助努力しかない。今後も大学として就職活動全体の包括的支援の中でSPI対策を考えていく必要がある。

(2) キャリアカウンセラーの要請

2010年10月から専門のキャリアカウンセラーを雇用し常駐した。厳しい経済状況下において、多くの企業は採用数を縮小し雇用調整を図ったため、前年度より内定率の大幅な降下が予想された。専門のキャリアカウンセラーとキャリアセンタースタッフとの連携で、学生がいつでも相談できる体制を整え、就職活動に対する不安感を緩和し、長期戦になりかねない状況を支援する体制をとった。

表 2-7：キャリアセンター来談者数（2010年10月～2011年3月10日）（人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2010	2010年10月から大学改革推進事業より支援						38	61	120	150	139	104
2011	232	146	140	125	0	14	82	111	134	249	389	110

【JCDA 日本キャリア開発協会カウンセラーによる来談者に対する所感】

－竹上晋太郎氏・富山佳代氏・宮崎 務氏からの回答－

（実践生が就職活動に取り組む姿勢について）

- ・就職相談に積極的な姿勢の学生もいるが、少数ではあるが自分で何も考えないで全部教えて欲しいという姿勢の学生もいる。大手企業志向の学生が多く、中小企業にも目を向けるよう指導している。
- ・真面目な学生が多いが、高校までの勉強姿勢の延長で、言われたことはやるが、反対に自主的に拡げることができる学生は極めて少ない。
- ・就職活動に対する個人の温度差はかなりある。他大学と比較すると就職活動をゆっくりとしたペースで進める学生が多い。

（来談者はどのような質問が多いですか？）

- ・履歴書・エントリーシートの添削・面接対策が圧倒的に多い。
- ・何をしたいかわからない。
- ・自信がなくて思うように動けない。
- ・就職活動に疲れてしまった。

（それに対してどのようなアドバイスを行っていますか？）

- ・本人が伝えたいことをじっくり聴いてから、仕事で貢献できる強みに繋がる経験がないかヒアリングをし、強みとしてどう表現したらよいかを一緒に考えることを基本にしている。
- ・職業選択で大切にしていきたい要素を拾うような投げかけをしている。また、新卒で就職をすることの大切さを伝えている。

（学生の指導にあたって心がけていることは何ですか？）

- ・学生自身で相談テーマについての課題解決ができることを念頭に置いている。
- ・学生個々人の意識・思考・能力レベルに合わせる。小さなことでも自信を持ってもらえるようなフィードバックをするようにしている。
- ・学生自身が気づいていない自分があることを気づかせサポートをしている。

（実践生全体に対するアドバイスをお願いします）

- ・相談に来る学生は、二極化している。1つは大手企業への内定の可能性のある層、他方は大手企業を志望しているがそもそも学生時代に頑張ったことがなく特徴のない層。1、2年のうちにエントリーシートなどの質問の意図を踏まえ、情報収集して考えを纏め、表現できる基礎学力や能力をつけることが大切。
- ・学内にこもらず学外に出て広く交流することや色々な経験を積む機会を自分でつくること。
- ・受身でない学問をすることや何かに打ち込むことがあるとよい。
- ・全体的にブランド志向なので、もっと現実を踏まえた選択も視野に入れる必要がある。

■成果

厳しい就職戦線の中、来談者はかなり増加した。キャリアセンターに来られない学生達の便宜を図るため、パソコンを導入しカウンセラーからメールや電話による指導・相談を行い、学生の就職活動の追跡を行っている。キャリアセンターにあまり足を運ばない学生の把握ができたこともあるが、学生にとってはキャリアセンターに来談に来るひとつのきっかけになった。また、キャリアセンタースタッフにも専門のカウンセラーの面談技術が参考になった。

第3章 Web上のコミュニティ「実践アラムナイ」

今回の取組では、Web上のコミュニティとして、「実践アラムナイ」(SNS^{*1}によるコミュニケーション支援システム)を立ち上げたが、本章では、その利用者の登録準備と実際の活用について報告する。

※1：SNS

Social Networking Service の略。人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制サービスやWebサイト。

1. 卒業生(アラムナイ)会員の登録受付

(1) 卒業生会員の利用登録

2010年7月にリーフレット Part II「実践アラムナイ会員登録ご案内」を若年の卒業生を中心に送付し、「みんなをつなぐコミュニティ実践アラムナイ」の呼びかけで会員を募った。興味を持った方には、リーフレット記載の申込先メールアドレスに、氏名、卒業年、卒業学科を連絡して貰い、担当者が本人確認の上、利用規約と申込書を返信、利用規約に同意の方を利用登録している。登録件数は2012年3月現在で93名となった。

(2) 在学生の利用登録

在学生が自然に利用できるように、全学生を一括で利用登録、ユーザIDとパスワードは大学ポータルサイト(履修登録、成績照会、シラバス、休講・お知らせ)と同一としている。サイトへの初回アクセス時には利用規約の確認画面を表示し、規約に同意の上で利用させている。また、プロフィール登録画面には、「希望進路」「自己PR」「学生時代に力を注いだこと」(200文字、400文字)等、就職活動で重要な項目も設け、各自考えて作文してみるよう呼びかけてみた。

2. SNSサイト「実践アラムナイ」の活用

(1) 取り組みの趣旨、目的、概略

在学生のキャリア形成支援と卒業生への生涯にわたるキャリア支援、そしてアラムナイネットワークの活性化ツールとして、SNSを構築した。実践生に特化した安心・安全な環境の下、主に以下を目的に機能を提供している。運用開始にあたっては、前年度から初期コンテンツの準備とテスト稼働を始め、2010年7月から運用を開始した。

- ・在学生のキャリア形成、就職活動を支援する情報の提供と蓄積
- ・在学生・卒業生等、実践の仲間のコミュニケーションの場
- ・卒業生のキャリアアップ、再就職支援情報、イベントの案内

(2) SNSによる卒業生の就職支援

2010年10月、卒業生と大学の双方向支援として未就職者や再就職支援コミュニティ「卒業生の仕事探しの広場」を開設した。本コミュニティでは、登録メンバー限定で、企業からの求人紹介、就職セミナー合同面接会の案内などを提供している。2011年度、既卒の求人数月平均約120件、累計既卒求人数は2095件、登録者は35名となった。

表3-1：月別既卒求人件数とコミュニティへの登録者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2010年度	2010年10月から大学改革推進事業より支援						78	50	75	216	211	86
							0	2	2	1	2	2
2011年度	147	125	161	56	15	346	189	80	102	78	80	—
	8	3	2	2	0	0	3	1	2	2	3	—

上段=既卒求人件数 下段=登録者数

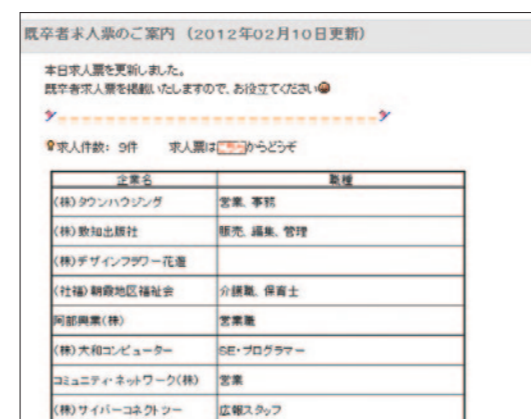


図3-1：求人紹介記事

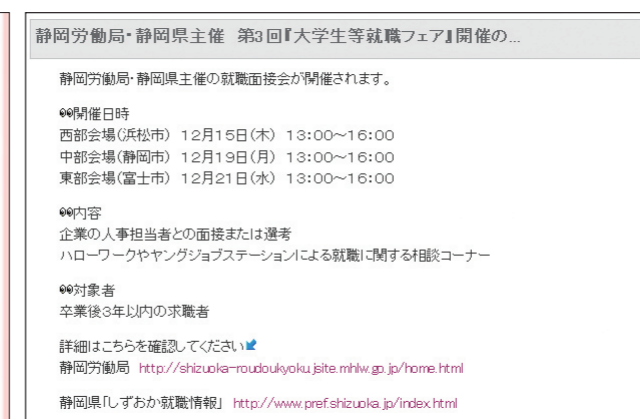


図3-2：就職セミナー・合同就職面接会案内記事

(3) 初年次教育、キャリア教育の授業コンテンツ

キャリア形成支援関連のイベントや授業の内容や配布資料を公開し、授業内容を編集した動画を学内限定で配信している。以下に実施リストを示す。各授業のコンテンツとHPの画面イメージを、巻末のデータ・資料集②としてまとめている。

表3-2：初年次教育、キャリア教育実施リスト(2010～2011年度)

科目名	実施年度	講師
実践入門セミナー	2010前期	湯浅学長、金田教授、他
実践キャリアプランニング	2010前期・後期	金田教授、常見講師
実践入門セミナー	2011前期	金田教授、常見講師
実践キャリアプランニング	2011前期・後期	金田教授、常見講師
実践キャリアデザインa	2011前期	金田教授
実践キャリアデザインa	2011前期	常見講師
実践キャリアデザインb	2011後期	常見講師
オープン講座c	2011後期	金田教授

(4) キャリア教員によるブログ、コミュニティ、研究室コミュニティ

1-1. 「常見陽平の愛のキャリア塾」

本学非常勤講師であり、就活関連の著書やwebでの発信で知られる常見先生のブログ。2010年11月より、学生生活を充実させるヒント、就活のポイントなどを発信している。

【主な掲載タイトル】

- ・ 非日常は強い日常から生まれる
- ・ 1年間をマジで振り返ってみよう
- ・ 日々の感動をつづってみよう、気づく努力をしよう
- ・ 仲間たちはもう OG 訪問を始めている「話しかける勇氣」をもとう
- ・ 考えと行動が似通っているという女子大生の就活の課題
- ・ 「変わる」ということにマジであるということ
- ・ レポート提出メールで感じたオトナにメールを送る際のマナー

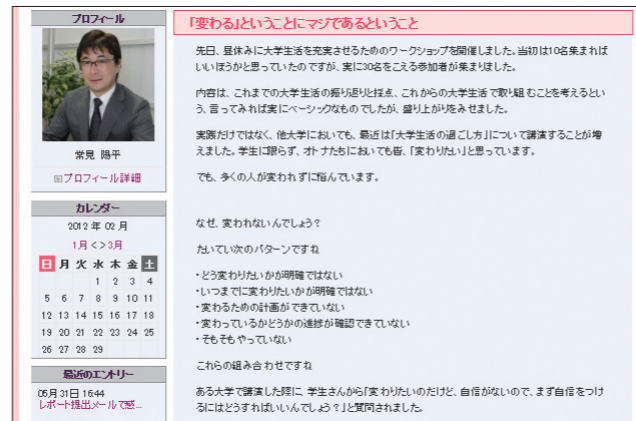


図 3-3: 「変わるということに…」記事

1-2. 「実践！選考対策」

同じく常見先生による 2012 年 1 月開始のコミュニティ。本格的に就活をスタートさせた 3 年生に向けて、選考対策記事を連載中。

【主な掲載タイトル】

- ・ なぜ、成功体験を聞くのか？
- ・ 「今日はここまで、どうやって来たのですか？」も、質問です。
- ・ 「挫折体験」にどう答えるか？
- ・ 志望動機をどうするか？(1) 好き、入りたいたいだけでは志望動機にならない
- ・ 志望動機をどうするか？(2) 「御社のビジョンに惹かれました」
- ・ 志望動機をどうするか？(3) 「世界的な総合商社です。だから入りたいです」では…

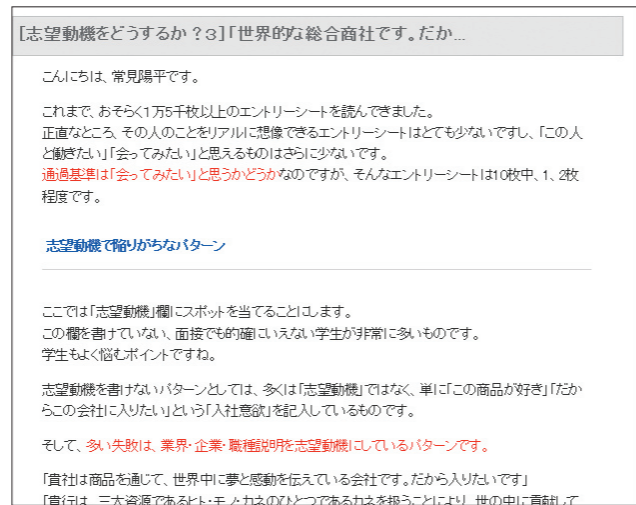


図 3-4: 「志望動機をどうするか」記事

1-3. 「プロダクトデザイン研究室」

2010 年 10 月開始のプロダクトデザイン研究室のコミュニティ。ゼミ生、モノ作りに興味のある人に向け、関連イベントや展示会、プロダクトデザイン (PD) 検定試験の案内、学外団体へのメンバー募集などを発信している。また、学園祭や体育祭への参加も呼び掛けている。コミュニティ公開時の教官からのメッセージは、「モノ作りの大好きな人の集まりです。誰でも参加できます。料理、雑貨、生活道具などの情報交換を行ないましょう。」

【主な掲載タイトル】

- ・ PDゼミの常盤祭
- ・ PD 検定 2 級講習会 (無料)



図 3-5: PD 研究室のロゴと展示会記事

- ・ 体育祭に参加しませんか？
- ・ モノづくりに興味のある学生募集
- ・ 共立女子大作品展「調和のある生活」案内
- ・ PD 検定 2 級の結果
- ・ JJ (JIDA Junior) の参加者募集
- ・ PD 検定 1 級の開始のアナウンスがされました
- ・ JJ 展示会オープニングパーティのご案内
- ・ PD 検定対策講座のご案内
- ・ PD 検定 2 級セミナー参加者募集
- ・ モノづくりワークショップ参加者募集

(5) Web 上のコミュニティ、ブログ

1-1. 「あなたのためのレシピ集」

気軽に閲覧できて、毎日の生活にも役立つ「体に優しく簡単なお料理」のレシピを紹介するコミュニティ。大学保健室作成のレシピ (冊子) を元に、実際に調理した感想と完成品の写真を添えて、2010 年 6 月～2011 年 5 月に 40 件を連載した。

【主な掲載タイトル】

- ・ めんたいじゃこご飯
- ・ あさつきと油揚げの卵とじ丼
- ・ わかめと豆腐のみそマヨネーズサラダ
- ・ ミネストローネスープ
- ・ マグロのぶつづけ丼
- ・ 豆と野菜のポタージュ風
- ・ 大根の梅サラダ
- ・ なすのなべしぎ
- ・ 野菜のせ豆腐ステーキ
- ・ キャベツの和風もみサラダ
- ・ 大根と油揚げの炒り煮
- ・ 春野菜がおいしい☆野菜のスープ煮
- ・ [電子レンジで作る] れんこんサラダ



図 3-6: 「大根と油揚げの炒り煮」記事

1-2. 卒業生 (実践キャリアネット)

2010 年 11 月開始の働く実践卒業生による、仕事の悩み交換、キャリアアップのための勉強会、在学生支援活動、異業種交流などの場「実践キャリアネット」のブログ。キャリアネット主催のセミナーや講演会のお知らせを掲載している。

【主な掲載タイトル】

- ・ 「私と仕事ーワークライフバランスー」
- ・ 「女性の起業」パネルディスカッション
- ・ 「生涯現場！仕事と女性」

- ・「ようこそ先輩、ようこそ後輩、働くを話そう！」
- ・「女性のキャリアと健康を考える。元タカラジェンヌに学ぶ。」

1-3. 卒業生

社会で活躍中の先輩が、日々感じた事や在学生へのアドバイスを発信中。

- ・社会人1年目、専門商社勤務の「ちあき」さんのブログ。「ちあき」さんは、新卒の募集、選考、研修も担当しており、会社視点の就活の話などを発信くださる。

【主な掲載タイトル】

- ・同期の存在。
- ・入社式、そして研修。
- ・スカウトメールを送る側の気持ち。
- ・会社説明会はじまっていますね！
- ・なぜ、大学の履歴書を使うのか？

- ・社会人3年目、販売職の「うめっこ」さんのブログ。日々のお仕事での体験談や社会人からのアドバイスなどを発信くださる。

【主な掲載タイトル】

- ・もし自分が学生だったら、社会人に聞きたいこと、「ぶっちゃけ、化粧って必要なの？」
- ・もし自分が学生だったら、社会人に聞きたいこと、「やりがいってどんなことにあるとを感じる？」
- ・もし自分が学生だったら、社会人に聞きたいこと、「学生時代にやっていた方がいいことって何かある？」
- ・面接が通りません。何がいけなかったの？
- ・新入社員が入ってきました。

- ・病院管理栄養士として3人のお子さんを育てながらキャリアを積んできた先輩「うり」さんのブログ。

【主な掲載タイトル】

- ・早稲田大学社会人大学院合格！
- ・ありがたい言葉の意味も…？
- ・他大学を訪問して考えたこと…(管理国試へエール！)

1-4. 「実践 SPI 塾」

学生の自主的な SPI 対策のきっかけ作りを目指し、2011年1月～8月の間、試験的に毎週約10問の対策問題を計20回掲載した。

・「就活応援講座」「就活応援ミニ講座」との連携

2010年の春休み期間中に、就活応援講座を試行した。講座では、最新の社会情勢、就活の法則、女子大学生にありがちなNGパターン、上手くいく人のキーワード等のお話に加えて、実践アラムナイを活用した、卒業生への連絡や就活仲間とのネットワーク作り、就活の記録管理、実践 SPI 塾の利用方法が紹介された。この応援講座は、一週間余の告知にも関わらず20～30名の参加者を集め、講座後には各回数名の個別相談もあり、好評であった。続く、2011年前期には、昼休みの時間を利用した「就活応援ミニ講座」を月一回のペースで実

施した。いずれも、常見先生が講師を務めている。各講座の実施の記録を以下に示す。

「就活応援講座」(2010年後期)

- 第1回「実践アラムナイで内定に一步近づく就活術」 (2/9、参加33名)
- 第2回「就活応援講座(2)」 (3/9、参加20名)

「就活応援ミニ講座」(2011年前期)

- 第1回「自分の道を強く進むための大学生生活の30のルール実践講座」 (5/20、参加36名)
- 第2回「就活難民になりたくない！アナタが、今すべきこと」 (6/17、参加70名)
- 第3回「いきなり、SPIが好きになる講座」 (7/1、参加21名)
- 第4回「就活難民になりたくない、あなたのための夏休みの過ごし方講座」 (7/22、参加23名)



図 3-7：ミニ講座の様子

・「実践 SPI 塾」アクセス状況

第1回目の回答日時点では、アクセス件数は40～140件/日、回答32件であった。しかし、3月以降はアクセス・回答件数ともに暫減していった。

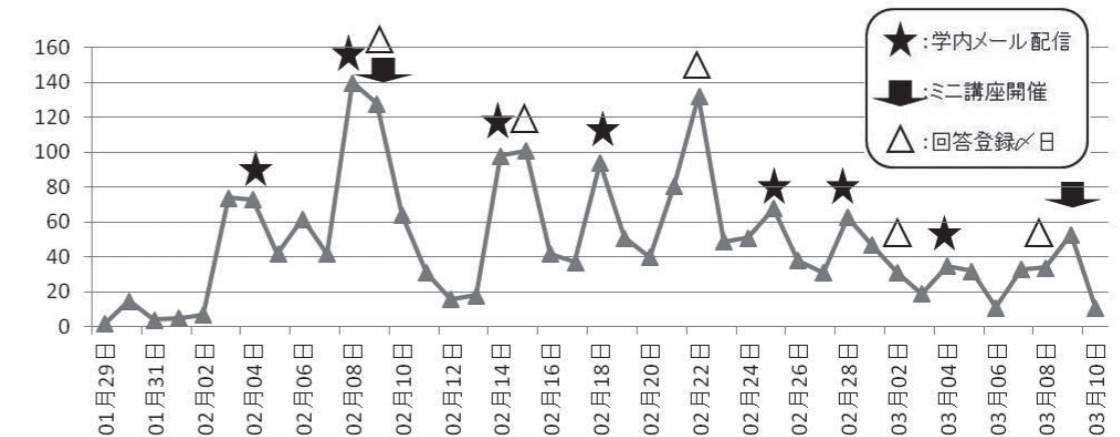


図 3-8：問題へのアクセス件数の推移スタート ～ 3月10日まで

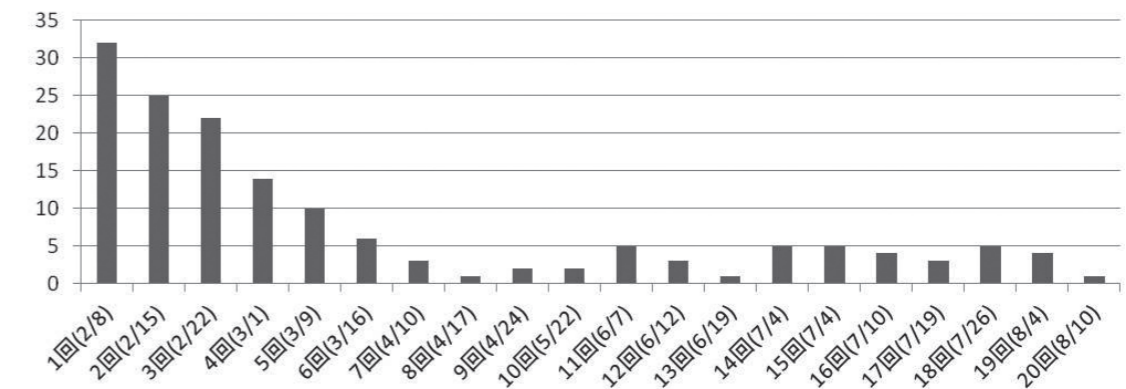


図 3-9：回答登録件数の推移 (第1回～20回)

1-5. 学生プロジェクト紹介、連絡

学生プロジェクトの活動紹介やプロジェクトメンバーへの情報伝達に利用している。

(1) ロリアル学生プロジェクト (2010 後期)

【主な掲載タイトル】

- ・ 第1回 (10月7日)、第2回 (10月14日) 集合のまとめ
- ・ 第3回集合
- ・ 決定事項の連絡
- ・ 集計・コメントありがとうございました!
- ・ 10月28日集合決定事項、配布物
- ・ 10月28日の報告
- ・ 個人写真撮影 (顔写真)
- ・ 特別イベント「輝く女性たちへ」内で AgainstAIDSメンバーが発表

(2) ファンケル学生プロジェクト (2011 前期)

【掲載タイトル】

- ・ インターンシップルームファンケル学生プロジェクトがテレビで紹介されました



図 3-10 : イベント案内記事

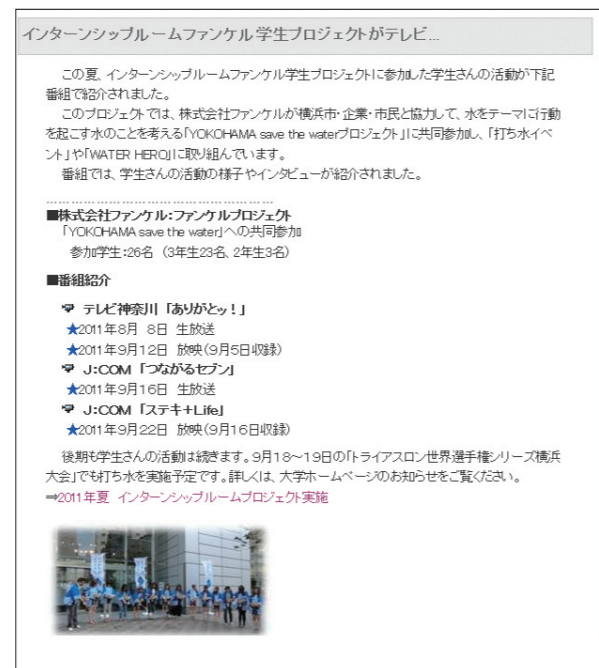


図 3-11 : テレビ放映の紹介記事

(3) アラムナイDVD制作学生プロジェクト (2011 後期)

【主な掲載タイトル】

- ・ 第2回打合せ実施【11/22 (火)】、次回予定
- ・ 第3回打合せ (11/25) メモ、次回お知らせ
- ・ 12/3のインタビュー・レポ☆6 (火) 打合せ
- ・ ナレーションを収録 (2/17)

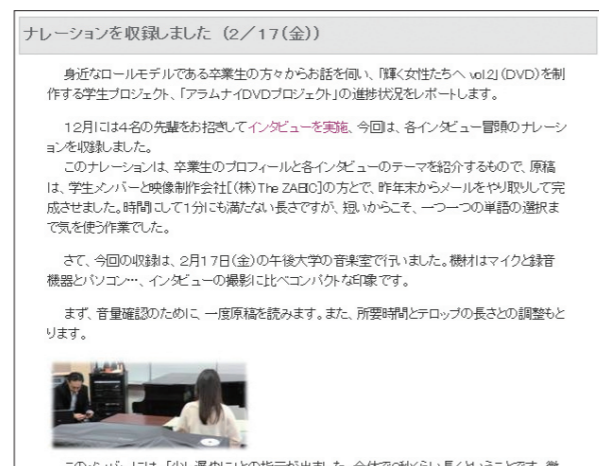


図 3-12 : ナレーション収録の紹介記事

(4) 常見先生と学ぶ実践リサーチプロジェクト (2011 後期)

【掲載タイトル】

- ・ 常見先生「実践リサーチPJ」報告会を開催

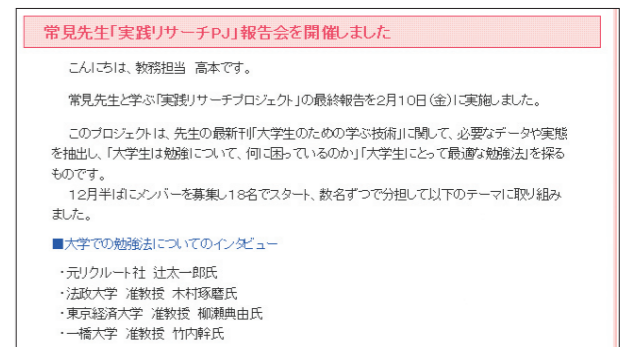


図 3-13 : プロジェクト報告会の紹介記事

1-6. 在学生

主に4年生が学生生活の感想や就活体験をブログで発信中。

- ・ 4年生、「ちー」さん。在学生の授業態度やマナーについての問題提起や、ご自身の就活体験を詳しく紹介している。

【主な掲載タイトル】

- ・ 礼儀とか、モラルとか。
- ・ なんだか悲しいです。
- ・ 個人的な意見ですが、～就活を振り返って～
- ・ 面接で実際に聞かれたこと。

- ・ 4年生、「mituko」さん。大学のイベント、サークル活動などをイラストと文章で紹介している。掲載のイラストは大学に提供いただき、ポストカード等に活用している。

【主な掲載タイトル】

- ・ 梅雨の体育祭!
- ・ ☆七夕パーティー
- ・ 天の川を見に行きました!
- ・ 新潟と食べ物
- ・ ハロウィンパーティー☆
- ・ やりたい放題☆常磐祭
- ・ 校内合宿



図 3-14 : ブログ掲載のイラスト例

第4章 広報、イベント等

本章では、今回の取組に関する広報やその関連事項、イベントについて報告する。

1. ホームページ

大学ホームページを通じて、以下の広報を行なった。

- 補助事業決定のお知らせ
「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」
文部科学省平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択されました。
- Web上のコミュニティ「実践アラムナイ」(SNSサイト)の運用開始のお知らせ
学生と卒業生 みんなをつなぐコミュニティ「実践アラムナイ」スタート
- ポスターセッションへの参加報告
大学教育改革プログラム合同フォーラムに「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」を出展しました
- イベントのお知らせ
実践アラムナイ総会開催のご案内(3/19)
実践アラムナイ総会の中止について ※3月14日更新
- イベントのお知らせ
実践アラムナイ・フォーラム2011のご案内(12/17)



図4-1：大学HPからの活動紹介記事例

2. リーフレット (卒業生への周知)

2010年1月、事業の紹介と卒業生に協力を呼び掛けるためのリーフレットを作成し、2003年から2007年度の若い卒業生を対象に3875名に向けて発送した。

また、2010年7月、Web上のコミュニティ「実践アラムナイ」の運用開始にあたり、利用案内と卒業生に協力を呼び掛けるためのリーフレットを作成し、2002年から2009年度卒業生を対象に、6258名に向けて発送した。



図4-2：Part I プログラムの紹介



図4-3：Part II 「実践アラムナイ」利用案内

3. クリアファイル (在学生・卒業生への周知)

「実践アラムナイ」をはじめ、この事業全体の趣旨を、学生・教職員・卒業生に伝えるため、「実践アラムナイ」のイメージデザインを採用したオリジナル・クリアファイルを作成し、リーフレットや説明資料や協力依頼文書を同封して配布することとした。クリアファイルの図案には4種類のイメージデザインを順次採用し、現在までに3種類のクリアファイルを作成している。

学生への配布は年により若干異なるが、概ね以下のタイミングで行なった。

- ・1年生：初年次教育「実践入門セミナー」のキャリアオリエンテーションの回(6、7月頃)
- ・2年生：キャリア教育「実践キャリアプランニング」(4月、9月)、2年生キャリアガイダンス(4月)
- ・3年生：キャリアガイダンス(4月)
- ・4年生：キャリアガイダンス(4月) または卒業式(3月)

※なお、2010年度卒業生は震災の影響で卒業式を中止したため、証書等配布物とともに一度送付したが、2012年3月に「1年後の卒業式」としてイベントを開催することとなり、最新の「春(IV館前と桜)2011」イメージのクリアファイルを再度配布し、協力を呼びかけることとした。

また、教員や一部職員にも、卒業生へのリーフレット送付に合わせて、クリアファイルに説明文書を添付・配布し事業の周知を行なった。



図 4-4：クリアファイル 3 種類



図 4-5：卒業生への協力依頼文書



図 4-6：新入生への説明資料

4. イメージデザイン

Web上のコミュニティ「実践アラムナイ」のタイトルイメージ画像をはじめとして、協力依頼用事務用品のクリアファイル等、多面的にイメージを活用して、学生や卒業生に愛着を持たれるよう、本学オリジナルのイメージデザインを制作することとした。

まず、「実践アラムナイ」のシステムにアクセスする際に季節感を出せるように、四季の要素を取り入れた。そして、「学生と卒業生 みんなをつなぐコミュニティ」のタイトルコピーに合わせて、本学のキャンパス風景に女子学生数名と教職員1名のイメージとした。最終的には、以下の4種類のイメージデザインを完成させた。



図 4-7：夏(本館とグラウンド) 2009



図 4-8：秋(南門からの銀杏並木) 2010



図 4-9：冬(操広場と桜ホール) 2010



図 4-10：春(IV館前と桜) 2011

現在、イメージデザインは、Webシステムのタイトルイメージ以外に、クリアファイル、アラムナイDVDの表紙等に活用しているが、次年度の初年次教育「実践入門セミナー」では、図書館利用ガイドや入門セミナーテキストのファイリング用バイндаの表紙タイトルに採用することを計画している。

5. 秋葉原ポスターセッション参加

2011年1月24、25日、秋葉原UDXビル・アキバスクエアで開催の文部科学省平成22(2010)年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」にて、25日のポスター展示会に出展した。当日は、卒業生参加型授業・イベントの開催及び、実践アラムナイの運用について紹介し、午前10時の開場時間から夕方まで、350以上

の大学・教育関連企業の方がブースにお立ち寄りくださり、取組の説明とともに各校の状況について情報を交換できた。



図 4-11：展示ポスター



図 4-12：展示ブースでの説明風景

6. アラムナイ・フォーラム

2011年12月17日、補助事業の一環として卒業生向けのイベントを企画・開催した。当初、2011年3月にイベントを企画したが、震災の影響から開催を中止した。初回となるこのフォーラムでは、卒業生に在学生の活躍を見てもらい、また、社会で輝く著名なゲストの講演会を楽しんでもらえるようにと企画・広報し、開催前に集まってもらえる卒業生を対象に、アラムナイ総会を開いた。

■実践アラムナイ・フォーラム 2011

【日時】12月17日(土) 13:00~16:00 (アラムナイ総会は、12:30より)

【会場】実践女子大学香雪記念館(大坂上キャンパス)

12:30~ アラムナイ総会(香雪記念館2階多目的室)

13:00~ アラムナイ・フォーラム(香雪記念館1階)

〈第1部〉「株式会社ファンケル 学生プロジェクト活動報告会

YOKOHAMA save the water ~熱中したことがありますか?~

〈第2部〉「イキイキと元気で生きるコツとは? 斎藤由香さんトークライブ」



図 4-13：フォーラム PR 資料

図 4-14：フォーラム紹介記事(後援会会報)

・参加者の感想 (抜粋)

- ・大変感激いたしました。特に1部では、学生の皆さんの成長ぶりを中村氏の指導のもとに発表いただき、人の成長のきっかけづくりの大切さを実感しました。また、2部では、由香さんの「輝子さんの生き様」を通して、人間の元気の秘訣をユーモアたっぷりに拝聴することができ、大満足です。
- ・机上ではない、体験、コミュニケーションの取り方、相手の立場でモノを考えること(それを実践すること)など、今更…と思うようなことが、今の子供達にはなかなかできないのだと改めて思いました。斎藤氏の話は、とても軽快で面白く、また、輝子さんの話は年齢にこだわらずに行動する勇気をもらえました。
- ・学生プロジェクト報告会は、実践女子大学生の活躍として、大変有意義な活動との印象を受けました。プロジェクトの内容の意義も高く、学生さんの成長がはっきりと伝わってきました。斎藤由香さんのお話は元気が出る内容でした。おばあさまの話はとても心に残りました。
- ・素晴らしいイベントにもかかわらず、参加人数が少なかったのが残念でした。今後のPR活動やイベントのタイミングを改善することもご検討願います。
- ・インターンシップの宣伝をもっとして、沢山の学生に意識付けする機会があればと思います。(自分の子供には参加して欲しいと思います。)
- ・一般の方へ学生が発表する機会が今後増えてくるといいのではと思いました。実践女子大生の質の高さを知ってもらえる良い機会だと思います。

残念ながらアラムナイ総会の卒業生の参加が数名と少なく、また、アラムナイ・フォーラムでは第1部は約80名、第2部は約70名の参加であった。参加者からも、内容は素晴らしいのに参加者数が少なくて残念との声がほとんどで、開催日時の設定や広報が至らず、今後課題を残す結果となった。

第5章 運営実施

本章では、事業運営にあたっての実施体制等について報告する。

1. 実施体制

事業の運営実施にあたっては、学長のマネジメントの下にキャリアセンターと教学組織・教務事務が連携して実施する体制を取り、全学共通教育と連動した強化を行うこととした。具体的には、キャリア形成支援（キャリア教育）に関わる取組について大学教育研究センターと大学事務部教務担当が適宜相談し、大学教育研究センター、同キャリア形成・教務部門と連携して推進した。また、就職支援の取組は、キャリアセンター長とキャリアセンターで適宜相談して推進した。

大学教育研究センター長、キャリアセンター長、キャリアセンター部長、大学事務部教務担当課長で随時相談し、重要な事項は、学長報告しながら実施するとともに、キャリア形成推進委員会に図ることとした。

なお、大学教育研究センターは2010年度から発足した組織で、大学教育研究センター長は学長指名により、全学教授会の承認を受けて選出される。今回の取組の事業推進責任者は、2009年度まで教務部長（教務委員会委員長を兼ねる）を務め、2010年度からは大学教育研究センター長の任にあたっている。

2. キャリア形成推進委員会

今回の事業推進にあたり、キャリア形成推進委員会を組織し、各年度の主要な取組について、活動予定・実績、進捗報告等、重要な事項を図り、意見やアドバイスを受けながら実施した。

発足時には、卒業生・企業といった外部委員を含み第三者評価の視点を備えることを目指したが、外部企業の立場で参画予定の委員が本学の非常勤教員としてキャリア教育に携わることになる等、諸般の事情により、第三者評価の視点としては課題の残る結果となった。

各年度の委員と開催履歴を以下に示す。

キャリア形成推進委員会 名簿（平成21年度）				
	氏名	所属	備考	
湯浅 茂雄	(オブザーバ)	国文学科	学長	
細川 優	(委員長)	食生活科学科	大学教育研究センター長	
棚田 輝義		国文学科	文学部長(広報担当理事)	
塚原 肇		生活環境学科	キャリアセンター長	
鍛島 康子			実践桜会(同窓会) 実践桜会理事長	
宇井 節子	事務(キャリア)		キャリアセンター部長	
荘司 伸一	事務(教務)		教務担当課長	

キャリア形成推進委員会 名簿（平成22年度）				
	氏名	所属	備考	
湯浅 茂雄	(オブザーバ)	国文学科	学長	
細川 優	(委員長)	食生活科学科	大学教育研究センター長	
棚田 輝義		国文学科	文学部長(広報担当理事)	
塚原 肇		生活環境学科	キャリアセンター長	
金田 肇		食生活科学科	キャリア教育担当(全学)	
常見 陽平			企業 株式会社クオリティ・オブ・ライフ キャリア教育担当非常勤講師	
鍛島 康子			実践桜会(同窓会) 実践桜会理事長	
宇井 節子	事務(キャリア)		キャリアセンター部長	
荘司 伸一	事務(教務)		教務担当課長	

キャリア形成推進委員会 名簿（平成23年度）				
	氏名	所属	備考	
湯浅 茂雄	(オブザーバ)	国文学科	学長	
細川 優	(委員長)	食生活科学科	大学教育研究センター長	
難波 雅紀		英文学科	文学部長(広報担当理事) ※7月より	
塚原 肇		生活環境学科	前キャリアセンター長(～H22)	
金田 肇		食生活科学科	キャリアセンター長 キャリア教育担当(全学)	
常見 陽平			企業 株式会社クオリティ・オブ・ライフ キャリア教育担当非常勤講師	
鍛島 康子			実践桜会(同窓会) 実践桜会理事長	
宇井 節子	事務(キャリア)		前キャリアセンター部長(～H22)	
荘司 伸一	事務(教務)		大学事務部次長・教務担当課長(兼務)	

以下に、その開催履歴と主要な議題について示す。

■平成21年度 第1回キャリア形成推進委員会

2010年3月11日(木) 15:35～16:36 事務センター3階 会議室
(議題)

【審議事項】

- H21年度進捗・実施報告と承認(実施状況報告)
- H22年度申請内容の報告と承認(H22調査)
- 構成員等、今後の進め方について
- その他

【報告事項】

- その他

■平成 22 年度 第 1 回キャリア形成推進委員会

2010年7月16日(金) 10:45~11:30 事務センター3階 会議室
(議題)

【審議事項】

1. H21 年度実績報告書
2. H22 年度調書、交付申請書
3. 今年度実施項目の進捗報告
4. 実践アラムナイ総会 (& DVD 制作)
5. 「実践アラムナイ」コミュニケーション支援システムの運用開始
6. その他

【報告事項】

1. その他

■平成 22 年度 第 2 回キャリア形成推進委員会

2011年3月17日(木) 15:00~16:00 事務センター2階 業務支援室
(議題)

【審議事項】

1. H22 年度大学改革推進等補助金報告
2. 今年度の活動報告
3. 平成 23 年度大学改革推進補助金調書
4. その他

【報告事項】

1. その他

■平成 23 年度 第 1 回キャリア形成推進委員会

2011年8月9日(火) 13:00~14:20 事務センター2階 業務支援室
(議題)

【審議事項】

1. H22 年度実績報告書
2. H23 年度調書、交付申請書
 - ・交付決定(通知)
 - ・補助金関連まとめ
3. キャリア教育テキスト教材
4. 補助事業の評価について
5. その他
 - ・アラムナイ総会について
 - ・「学内ワークスタディに関するコーディネータ」について

【報告事項】

1. 今年度実施項目の進捗報告
2. その他

■平成 23 年度 第 2 回キャリア形成推進委員会議題

2011年12月1日(木) 17時10分~18時15分 事務センター2階 業務支援室
(議題)

【審議事項】

1. アラムナイ・フォーラム 2011 の開催について
2. その他
 - ・「学内ワークスタディに関するコーディネータ」について

【報告事項】

1. キャリア教育テキスト教材について
2. 動画配信機能追加の納期遅延について
3. その他

3. 利用規約

Web 上のコミュニティとして、「実践アラムナイ」を立ち上げたが、その利用開始にあたっては、これまでの大学ポータルサイトのような在学生向けサービスにとどまらず、卒業生という社会人の利用者を含むことから、新たに利用規約を整備し、監事の指摘を反映し、理事会承認を受けて運用開始することとした。

巻末に「JISSEN ALUMNAE 利用規約」をデータ・資料集③として付したが、利用者は最初の利用時に、この利用規約を確認・承諾してから利用するようになっている。

第6章 分析と考察・今後の展開

本章では、第1章から第4章までの活動実績について、分析と考察を中心に報告する。

まず、事業におけるさまざまな取組について特に効果的であったもの、これから効果を生むであろうものを中心に分析し、次に、課題と考察について報告する。

1. 取組の効果

ここでは、第1章のキャリア形成支援(キャリア教育)、第2章の就職支援(キャリアセンタープログラム)の取組から、特に効果的であったものについて、その効果を分析する。

■「卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業」

卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業は、2年生の必修授業「実践キャリアプランニング」の授業回に、卒業生を外部講師として招いて、学生の前で直接話をしてもらった取組で、事業全体の中心テーマを表す取組でもある。前述の通り、この取組については毎回アンケートを実践してきたが、その結果、学生からの評価はとても高く、特に「参考になった点(複数回答)」との問いに、「社会人として働くことのイメージ想起」との回答が一番多かった。

巻末のデータ・資料集①では更に多くの学生からのコメントを紹介しているが、そこからは、「卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業」により、学生たちがキャリア形成における重要な点について非常に強い触発を受けていることが伺われる。具体的には、以下のようなコメントに象徴される。一部だが例を挙げ、内容別に整理してみる。

① 学生時代に熱中したこと、努力したこと、思い出・経験・感動・成長

「今、学生時代に何をしたら良いか、とても参考になりました」

「実際に大学でどんなふうに過ごしていたのか知ることができた」

「学生生活をありのままに活発的に過ごそう！中身のある人間になろう！」

「いろいろな経験ができる学生の時期にこそ、視野を広げ、様々な経験をしたいと思いました」

② 自分の可能性、多様な選択肢

「お話を聞いて、始めから絞りすぎず、様々な分野にも目を向けたいと考えました」

「やりたいこと＝向いていることとは限らない」

「多角的に物事を見る」

「自分に向いている仕事を見つけたい」

「今からもっと自分と向き合い、自分を知らうと思いました」

「自分らしく働くことができるのが大切」

③ 積極性、課題や困難に恐れず挑戦する心、向上心

「自分から進んで行動することが重要」

「仕事をすれば、課題や困難もあるが、その経験を積み上げてみたい」

「失敗が土台になり、成功につながっているのだ、と強く思った」

「やりたいことは全てにチャレンジ！、がすごく励みになりました」

④ 働くイメージ、意欲、夢、将来への希望、期待、安心、自信

「私もなれるかも、立派に働けるようにがんばろう」

「職場が自分次第でとっても楽しくなるんだ、とわかって本当に嬉しかった」

「人柄や能力次第なのだから、もっと自分に自信を持つと思った」

「心の重荷がとれた気がした。みんな悩んでいるのは同じ！私も頑張ります！」

「就職したらゴールではなく、就職したらスタートなのだと思います」

「私もバリバリ仕事がしたいと強く思いました。」

「リアルな話を聞いて、今の私でも頑張れば近づけるかな、と思えました」

⑤ スクールアイデンティティー、自校への誇り、自校教育

「実践女子大学が社会からどう捉えられているのか、がわかった」

「実践女子大学の良さ、を聞いて良かった」

「実践にはこんなに素晴らしいOGの方がいらっしゃる」

⑥ 先輩へのあこがれ、ロールモデル、親近感

「学科の先輩に、ここまで”デキル”女性がいるのを知ったら、すごく嬉しくなりました」

「自分とあまり年の離れていない先輩からお話を伺うことは本当にためになった」

「5歳上とは思えないほど、大人っぽくハキハキと話していてカッコいいと思った」

「先輩からのお話しの方が、本よりずっと分かりやすく参考になる」

「身内である卒業生の方のお話は、自分のことのように聞けたので、心強くなりとても良かった」

「卒業生が誇りに思える授業でした」

「身近だし、イメージがしやすく、自分に置き換えて、具体的に考えられるようになりました」

①から⑥の分類は特に体系だったものではなく、キャリア形成・就職支援の場で使用されるキーワードを中心にまとめたもので、相互に関連し合う部分もある。また、全てをとりあげ網羅したものではない。

①はキャリアセンターが、これから就職活動に入る3年生に向けて毎年繰り返し伝えている、就職活動で必ず聞かれることである。そもそも充実した大学生活を送るようにと、入学時のオリエンテーションをはじめ、いくつかの場面で伝えている事でもある。そうは言われても、多くの学生が「さて、何だろう？」となり、「アルバイト？」と答えるのが実情であった。現在は、初年次教育やキャリア教育をはじめ、早い段階から繰り返し伝えている。その最初の世代は今の3年生ですでに就職活動が始まっている。

②は初年次・キャリア教育や、キャリアセンターの就職支援プログラムを通じて、学生に訴えていることである。まず、背伸びせず、卑下せず、等身大の自分自身を良く知ろうということ、特に自分の可能性を勝手に閉じ込めないことは職業選択において重要である。具体的には、大企業と中小企業、自学科の専門性、希望する業種や企業、一般職か総合職、営業職等、職種の向き不向きを勝手にイメージで決めて狭めていないか、ということにもつながる。これについては、社会情勢が見えていなかったり、親の意向が強く働いていたりするケースもあり、そうした個々の背景も見逃せない。

③はキャリア教育の授業を開始して、すぐにキャリアセンターとの共通課題となった、本学の学生気質でもある。「真面目で大人しく感じの良い学生達だが積極性にかける」といわれる。いみじくも、アラムナイDVDの中でも、「謙虚さは大事だが、消極的とは違う。ここはチャンス！という瞬間は逃さず挑戦を！」とのメッセージをいただいているが、現在特に力を入れている課題のひとつである。

④も重要な課題である。キャリア教育の授業からもキャリアセンターの現場からも、学生達は自信がない、コンプレックスが強い、といった声が聞こえてくる。この課題を個々人に掘り下げると、大学生活以前の経

験や環境に行きつくこともしばしばある。大学生生活や就職活動が始まる、といっても自分がどうなるのかイメージがわかず、前向きに取り組む、挑戦する気になれない状態を続かせてしまう。

⑤の重要性は新共通教育カリキュラム導入時から検討され、初年次教育の中でも、学長自らが学祖を語る自校教育を取り入れている。別に、夏に学長と一緒に学祖の故郷を訪ねる「がくたび」も実施しており、まずは、学祖と建学の精神、教育理念を正しく知り、そして、本学の学生であることの自覚や自信、誇りへとつなげるべく、今回の取組も含めて力を入れている課題である。10年以上前から「不本意入学」との言葉が各大学で聞かれ始め本学も例外ではない。その場合、本学のことを何も知らずに入学してくる。

⑥は特にこの取組で期待する効果の検証として集めた。これらは学生達のコメントの随所に見受けられる。①から⑤のような課題・テーマはいずれも重要だが、学生は言葉で説明されても理解し行動に結びつけることはなかなか難しい。しかし、身近な卒業生の経験を通じて教えてもらうことで、一気に現実味が増す。

ここから言えることは、「卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業」では、キャリア形成の観点から学生達に伝えたい重要、かつ、さまざまな課題を理解させることができる、身近な卒業生が経験を通じて教えることはより効果的である、ということである。

学生にとっては、同じ学科を出た若い卒業生の方が、等身大の自分に重ねやすく、よりイメージがし易いようである。前述の通り、取組においても、アンケートの結果や授業の反応から、途中そのように切り替えた。社会で輝いている、活躍している、著名であるということは重要だが、それが、「同じ学科の卒業生」で、学生時代は同じように過ごした先輩であることが、もしかしたら自分もそうなれるかもしれない、自分もそうなりたい、頑張れる、という気持ちや行動に結びつきやすいと推察する。

卒業生の話は、今社会で働いている実経験であり、新鮮である。しかも、自分の学生時代を振り返りつつ、後輩達にかつての自分を重ね合わせて話しかける。何よりも後輩達のために、との思いで語られ、言葉以上に直接響くものがある。実際、授業終了時に興奮奮めやらぬ熱気に包まれている回も多くあった。

また、今回の取組とは別に、本学ではキャリア教育科目の中で企業からの外部講師を招き、仕事や社会で働くという視点から、今、学生時代に何が大切か考えてもらうことも行ってきた。

そちらの授業回でも同様のアンケートを実施したが、企業と卒業生とでデータ比較をすると、いずれも「社会人として働くことのイメージ想起」がとても高いことが共通している。これに、卒業生では「進路選択、就職活動、探し方」「大学生生活の過ごし方」が続いているが、企業では「女性の生き方」「進路選択、就職活動、探し方」が続き、また、数値的には卒業生の方がかなり高い。ここからも、卒業生が触発するのは、「今のこと(学生時代)」であり、「すぐこれからのこと(就職活動)」であり、身近に感じ、行動に結びつきやすいことが伺われる。

以上、この取組の効果はとても高い、と判断できる。

■キャリア教育の補助教材

この取組の中で、DVD、冊子、Webコンテンツといったさまざまなメディアによる、キャリア教育の補助教材が完成した。

第1作目のDVDは、社会で重責を担って活躍している卒業生2名と、OG訪問会と同時開催のパネルディスカッションでの若い卒業生からのメッセージ、参加学生へのインタビューで構成している。第2作目は、学生プロジェクトで企画・制作し、4名の卒業生に現役学生がインタビューする内容構成としている。

「卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業」のように、卒業生のお話を目の前で直接聞けることが一番効果的ではあるが、社会人である卒業生は忙しく、社会で重責を担って活躍しておられる方々であればなおさらである。DVDというメディアに作品として完成することで、いろいろな場で、いつでも大勢に見せることができる。

実際に、第1作目のDVDは、1年生必修の「実践入門セミナー」のキャリアオリエンテーションという共通の授業回を利用して、社会のトップで活躍される著名な卒業生へのインタビューシーンを見てもらったが、著名な卒業生がいることで本学の学生であることに誇りを持ち、学生時代には今の自分たちと変わらない普通の学生であったことを聞き、安心したとの感想がよせられている。何より後輩達への思いが伝わることも重要である。授業以外では就職支援プログラムの他、父母向けに本学の取組を紹介することができた。

なお、第2作目のDVDは、学生プロジェクトや、冊子(アラムナイテキスト)と連動しており、平成24(2012)年度の授業やイベントに冊子やDVDの制作に協力していただいた卒業生を招くことを計画している。

また、Web上のコミュニティにおいては、「実践入門セミナー」「実践キャリアプランニング」「実践キャリアデザインa」「実践キャリアデザインb」「オープン講座c」といったキャリア教育の授業について、一通りの動画コンテンツを完成したが、本格的な活用はこれからである。

現時点ではその効果を計ることはできていないが、各種のメディアの特性を生かして、今後の活用に期待が持てる。

■アラムナイ・ネットワーク(協力を得られた卒業生)

事業では「アラムナイ・ネットワークを構築する」ことをうたい、さまざまな取組を展開しているが、いずれも卒業生の協力がなければ実現できないものばかりである。逆に、母校のため、後輩のため、キャリア形成(キャリア教育)に、就職支援にと、今回ご協力いただいた卒業生そのものが大学の今後の財産であり、心より感謝申し上げたい。

ここでは、ご協力いただいた卒業生の人数について集計する。ただし、就職支援では以前から卒業生の協力を得ているため、今回は特に、キャリア形成(キャリア教育)やその他の取組で協力をいただいた卒業生を中心にとりあげる。

具体的には、「卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業」では2年間で18名の卒業生にご協力をいただいた。また、キャリア教育の補助教材「燦—しなやかにそして力強く—」の企画編集では28名の卒業生にご協力をいただいた。実際はその倍程度の人数を依頼したが、今回はたまたま日程や状況が合わず、次回また何か機会があれば協力したいとの回答をいただいた卒業生も多数あった。Web上のコミュニティ「実践アラムナイ」では現在100名近くの卒業生が登録を申し込んでいただいている。さらにDVDやアラムナイフォーラム等、延べ170名ほどの卒業生にご協力をいただいたことになる。

今後数年すると、卒業生達に憧れて、良い刺激やきっかけをもらった経験を持つ学生達が卒業生として順次社会に旅立っていく。その中には卒業生への感謝の思いとともに、今度は自分が、との思いで母校や後輩達のために協力をしてくれる卒業生が現れるかもしれない。そのような理想的な循環を作り出せるかどうか未だ見通せてはいないが、大切なことは、最初に協力を引き受けて下さる卒業生達がいなければ何も始められず、本学では、3年間(実質2年3カ月)で170名もの卒業生にご協力いただいたという事実である。

いずれにせよ、大学にとっては大切な今後の財産であり、取組の効果である。

■学生プロジェクト(実践インターンシップルームの設置とキャリア教育の推進)

今回の取組に関連して、補助事業の中で、平成23(2011)年度は別枠として「学内ワークスタディ」が認められた。これに先立ち、平成23(2011)年度より、本学では「就業力」育成の観点から、大学独自の事業として「実践インターンシップルームの設置とキャリア教育の推進」を検討しており、趣旨から判断して、この一部に充当する計画とした。

この独自事業の概略は、正課内外に活用できる大学独自の「実践インターンシップルーム」を新設し、よ

り実践的なキャリア形成支援の展開を行なうことで学生に対して一層のキャリア形成支援、就業力強化を推進するものである。具体的には、大学と企業で連携し、学生が直接様々な業務・職種や企業の最新動向を経験できる機会を用意し、学生プロジェクトを立ち上げ、学生達の自主的な参加、運営をサポートする。また、キャリア形成において常に志を高く、モチベーションを維持できるよう触発していく。

平成23(2011)年度は学内店舗跡地を活用して「実践インターンシップルーム」をベースに企業等と連携し、4つの学生プロジェクトと就活ミニ講座を実施した。以下に各プロジェクトの協力企業と学生プロジェクトの活動テーマを示す。

- ① 株式会社ファンケル様 CSR活動への共同参加と広報PR活動、企画・提案・発表
- ② ロレアル株式会社様 広報部・広報イベント体験、広報分析・提案
- ③ 株式会社The ZABIC様 映像制作会社とDVD企画、卒業生インタビュー、編集見学
- ④ 株式会社主婦の友社様 常見先生と学ぶ「実践リサーチ」、他大学インタビュー、出版

この事業の詳細については別の報告とするが、特に前期実施の①の学生プロジェクトは、就活指導に長けた企業側担当者の下、学生達は自主的に活動を行なう中で就業力を向上させ、満足度の高い結果を残すことができた。他のプロジェクトもいくつか改善点はあるが、全般に満足度が高く、活動を通じていくつか、学生に良い効果が見られた。後期中からは場所にとらわれずに、学生プロジェクト活動を中心に事業推進しているが、今後はさらに企業と調整しながら、質の向上と量の適正化を勘案しながら進める。平成24(2012)年度も「学生プロジェクトによるキャリア教育の推進」と名称変更して事業継続を予定している。

■OG訪問会

キャリアセンターの就職支援プログラムの中では、在学生にとってOG訪問会が一番、卒業生とコミュニケーションが多くとれる機会である。3年間実施し、そのアンケート調査の結果から見えてきたことは、卒業生との面談で就職活動に対する不安感を取り除けた、自分も先輩のように一歩前に踏み出して一生懸命頑張ろうという勇気が出てきた、という多くの感想である。これは非常に高く評価したい。

参加学生のインタビューでも、「先輩も自分達と同じように悩んでいた」「就職活動はまず行動に移すことから」「数多くの業界の話聞くことが大切」「気軽に話を聞けるのがとても良い」「不合格のときの気持ちの切り替え方」といった話が聞けた、と語られており、在学生の今後の就職活動の支えになっていることが伺える。

また、卒業生にとっても、社会人となってまだ2、3年目の先輩にとっては、後輩達に勤務先企業の内容のこと、就職活動時の体験談を伝えることで、社会人としての自覚や自信も生まれるであろう。

互いに親身になって教え、学びあう双方向型支援は、在学生、卒業生の双方にとって、とても良い効果を生んだといえる。

■父母のためのセミナー

前述の通り、現在の学生達の父母が就職活動をした年代は採用構図の中に新規学卒一括採用の仕組みがあり、卒業と同時に仕事の世界へスムーズに、しかも安定的に移行され、特殊な仕事以外はほとんどが正社員として雇用されていた。しかし、現在では社会構造も変化し非正規雇用の若者を多数生みだし、景気等の社会情勢から学生の就職難もひどく、特にここ数年は一段と厳しい就職戦線になっている。

女性が専業主婦でいることが難しい時代、親としては就職活動を見守り、時には励ましたいとの気持ちは共通だと思うが、親が描く理想についても少し頭を切り替えなければ、結果、娘の就職活動を行き詰らせる

ことになりかねない。

この取組については、これまでに「娘の就職活動、親としてどんな支援が出来るのか」「どのようにコミュニケーションをとったらよいか」「就職活動の現状とキャリアセンターの支援」といった内容で開催を続け、毎回多数ご参加いただき、多くのご意見やご感想、励ましもいただいている。具体的には、5年間を通じて毎回約100～150名のご父母に参加いただき、面談等の中で「娘が就職できる場所はあるか」「どんな資格が必要なのか」「親として何をしたらいいのか」などの相談を受ける。講演やセミナーの内容も毎回工夫をしたが、社会人2～3年目の卒業生を迎えてパネルディスカッションを開催し、その中で「就職活動時の娘の気持ち」や「就職活動に直結した話」を語ってもらったこともある。

毎回、厳しい就職戦線を親子で一緒に戦おうとする意識の変化が窺われ、父母の時代とはあまりにも異なる、今の就職活動の厳しさを理解してもらうことの重要さとその効果を実感する。

■キャリアカウンセラー

企業の雇用戦略の変化と若年労働市場の変容による社会変化は、急激に就職内定率を下げ始め、さらなる就職支援の強化が必要なことから「キャリアカウンセラー」の配置を計画していたが、平成22(2010)年度からは特に「キャリアカウンセラー」について追加補助が認められたこともあり、それをさらに増員し就職支援や学生サポートに力を入れてきた。具体的には、JCDA(日本キャリア開発協会)所属の専門のキャリアカウンセラーに依頼し常駐してもらうことにした。

大学がキャリアカウンセラーに要望したことは、学生への指導に当たっては「学生がこれまでしてきた経験を丁寧に聴くこと」「学生が気づいていない盲点を発見すること」「職業選択において学生自身が大切にしたい要素など」心理的フォローをも含めたサポートである。

キャリアカウンセラーに個別にヒアリングした結果、特に「どのように就職活動をしてよいかわからない」「自信がなくて思うように動けない」という相談を非常に多く受け、就職活動を諦め、止めてしまわないように多くの学生を励ますことができていたことが分かった。学生の就職に対する危機感や不安感などが緩和され、多くの学生が一歩前に進めたということであり、それは最大の効果である。例えば、この効果を単純に就職内定率と結びつけて判断することは難しい。母数の取り方にもよるが、母数を就職希望者とした場合には、学生が就職を諦めると就職内定率そのものは上昇してしまうからである。逆に頑張ると就職戦線に留まれば数値は下降する。

したがって、現在のこの厳しい就職状況下においては、「キャリアカウンセラー」の配置・増員により、一人でも多くの学生を励ますことができたという事実を持って非常に良い効果を生んだと判断する。ちなみに2011年の来談者は月平均約158名で、キャリアセンターに足が遠のいている学生にはメールや電話での指導・相談を行うことで、従来より学生の状況把握も迅速に行えるようになった。

2. 課題と考察

ここでは、事業の取組や全般について課題や反省点をあげ、今後に向けて改善するため、原因や対応について考察する。

■SNSサイト「実践アラムナイ」の活用

【課題】

「卒業生、在学生の記事・コメントが少ない。在学生のアクセス数がまだまだ少ない」

【考察】

- ・初年度、利用環境やコンテンツ準備等の環境整備を進め、2010年7月から本格的に運用開始して約1年と9か月となる。卒業生の利用登録者が約100名近くになったことは喜ばしいことだが、なかなか記事やコメントの発信につながらない。おそらく、具体的に自分が何を書いたら良いか、後輩のためになるかがわからない、というのがその理由かもしれない。また、件数が少ないので書き込みがしづらいかもれない。
- ・対応策として、学生が悩んでいる課題を順次取り上げ、それに対して解決した経緯をもつ学生に書き込みをしてもらうような試みも行ってみたい。
- ・また、在学生でも数名の4年生が定期的に後輩のための記事を書いてくれ、この春卒業生になった。卒業時には声をかけ、これまでのお礼を伝えたが、またこれからも後輩のためにコメントしてくれるとうれしい話をいただいた。こうした行動により、顔の見えなかった協力的な利用者から、顔の見えるさらに協力的な利用者になることになった。結局、一人ずつ顔の見える協力者を増やしていくことが近道かもしれない。

【課題】

「キャリア教育の授業コンテンツへのアクセスがまだまだ少ない」

【考察】

- ・大学のキャリア教育の授業については、編集してコンテンツとして置いているが、アクセス数が少ない。これは学内のみの配信となっていることが原因のひとつと思われる。また、卒業生にも今、新しく行われているキャリア教育をみてもらうことができない。これについては諸事情あって遅れているが、次年度すぐに対応したい。また、授業との連携もまだ工夫の余地がある。
- ・第2章で報告の通り就職支援対策として「SPIの増強(2年生)」を行ない、さらに、第3章で報告の通り、SPI対策として「実践SPI塾」コミュニティを開設した。Web上の「実践SPI塾」については、試行的に、就活応援講座や就活応援ミニ講座として実際のイベントと連動させてみた。これには一時的に効果があるが長続きはしないという結果が見て取れた。ただし、イベント開催サイクルを短くしたり、長期休業との兼ね合い等、さらに検証の余地がある。

■在学生のイベント行事への参加

【課題】

「学生のイベントや行事への参加が少ない。」

【考察】

- ・実践アラムナイ・フォーラムを開催したが、想定したよりも少なく残念な結果であった。これについては、開催日時の設定や広報にも多少問題があったと思うが、この事業の取組に限らず、学生を集めることには日頃から苦労しているのが現実である。特に講師や来場者に外部の方が来やすいように土曜日午後で開催するという場合には、特に学生の参加が少ない。学生の参加が少ない原因として、①企画が学生の興味にマッチしない。②アルバイトなどの予定を優先する。③向学心、向上心が不足している。④積極性がない。等が考えられる。
- ・対応策として、卒業生参加型のイベントでは、参加卒業生の出身学科への広報を強化する。
- ・積極性もキャリア形成の重要テーマであり、特に本学の学生には必要である。どちらが先かの議論にな

るが、キャリア教育の授業で繰り返し説明をしてもなかなか難しい。逆に、積極性を克服できたら、本学のキャリア形成支援が大きく進んだ証左と捉えても良いかもしれない。

- ・重要なイベントは、その内容が合致すれば授業回に振り替えるということもたまに行われるが、それは強制力を多分に含むため、自ら進んでという部分が弱くなり、せっかくの素晴らしい内容も、参加する姿勢が受動か能動かで大きく差が出る。やはり本人の意思や自覚で積極的に参加、挑戦する姿勢を醸成することを目指したい。
- ・具体的には、学生プロジェクトのような機会を増やすことは効果的と思われる。
- ・また、早めに準備計画し、学内の情報共有や連携して学科で周知していただく等、工夫、改善の余地もあるかもしれない。

■卒業生への呼びかけ、卒業生への就職支援

【課題】

「卒業生向けイベントを案内しても参加が少ない」

「卒業生への就職支援を情報提供しても問い合わせが少ない」

【考察】

- ・今回アラムナイ関連の呼びかけを通じてあらためて感じるのは、人集めの難しさである。事業の開始にあたっては、同窓会やキャリアネットに相談し、取組の内容やその趣旨から、まずは比較的若い卒業生を中心にDMを発行した。それでも100名近い卒業生に登録いただいたことは今後の希望である。
- ・もともと、大学ではゼミやサークルにおいて、教員や顧問と学生、先輩と後輩、友人のつながりが存在する。今回の取組の中で注目すべきは、「卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業」やアラムナイテキストに協力いただける卒業生を、各学科から紹介してもらい、実施できたことである。これまではキャリアセンターと卒業生のつながりで実施していた。
- ・在学生同様、卒業生向けイベント等についても、学内での連携や調整、情報共有においてまだまだ工夫の余地があるかもしれない。今後、学科との連携を強め参加者を増やす努力をする。
- ・キャリアセンターでは今後、就職支援をはじめとする卒業生への支援を充実する計画だが、なかなか卒業生からの反応が寄せられない。おそらく、大学がそのようなサポートをしてくれる、という認識が浸透していないことによると推察する。
- ・これらについても、卒業生に対しても継続して案内するとともに、在学生に対しても今の内から周知していくことが重要である。

■OG訪問会

【課題】

「在学生の事前準備、積極的なアプローチ、モチベーションがまだまだ不足」

【考察】

- ・在学生(主に3年生)には、OG訪問会の前に参加企業の資料を配布しているが、就職活動直前(毎年2月に開催)の学生がOG訪問会の参加企業について会社研究をどこまでしているかでOG訪問会の価値が違ってくる。心理的なフォローでは効果を上げているが、生の声を聞けるチャンスなのに積極的なアプローチが足りない。
- ・在学生のモチベーションが高い訪問会となれば卒業生もそれに答えるためにかなり情報収集などの準備をすると考えられる。そういう意味では、今のところ在学生のモチベーションが低い。

- ・卒業生達がなぜ自分達（在学生）を支援してくれるのか、それをもっと気づいてくれれば達成度はもっと上がる。

【課題】

「卒業生の参加・協力をさらに増やしたい」

【考察】

- ・OG訪問会など、大学で実施する行事にもっと沢山の卒業生が参加して欲しいという願望がある。一つの原因として卒業生の母校に対する帰属意識が希薄になりつつあるのかも知れないが、だとすれば、本学を卒業してよかったという母校への思いを醸成しておく必要がある。帰属意識が希薄な根底には、不本意入学などの思いを引きずっていることが考えられる。初年次教育、キャリア教育、専門教育を通じて、実践女子大学に入学して良かったと学生が思えるような教育や環境作りを教職員が率先していかなければ、解決しない問題である。
- ・これに対しては、自尊教育の強化や例えば、プレ社会人の教育を行うことにより社会に対する不安感や現実の社会を知る機会を作る就業前教育をすることによって母校への意識は変わってくる。大学はいつも卒業生を見守っているという発信が大切である。これが双方向型支援の強化に繋がる。また、出身学科やゼミの協力を仰ぎ、参加卒業生を増やす努力が必要である。

■父母のためのセミナー

【課題】

「父母向けイベントの開催が拡散し趣旨が不明確」

【考察】

- ・本学では父母の「娘の就職」に関して非常に関心度が高い。さらに満足度を高めるためには、内容の検討が必要である。
- ・現在、後援会主催「地区父母懇談会」大学主催「就学・就職フェア」「jissen フェスタ」キャリアセンター主催「ご父母のためのセミナー」など色々な切り口で開催している。回数も多いため、開催の趣旨が不明確で拡散している。
- ・現在、講演内容とその対象者や開催時期の検討がなされ、次年度からは内容の充実を図り、スタートする。今後も大学・父母・卒業生の三連携体制で就職活動の支援強化をしていく。

■キャリアカウンセラー

【課題】

「マスから個の就職支援へ。専門キャリアカウンセラーとの連携」

【考察】

- ・学生の就職支援が「マス」から「個」へ移行していく中でキャリアセンタースタッフは沢山の業務を抱えることになった。特にここ数年は、学生に対する個々の指導・支援には多くの時間を費やすことになり、学生の相談業務はどうしても専門のキャリアカウンセラーに頼ってしまうところがある。結果として、個々の学生の情報や状況が掴めなくなる懸念がある。
- ・これらを回避するためにはキャリアセンタースタッフとキャリアカウンセラーとの綿密な連携と情報共有が必要であり、さらにこのことがより重層的な効果を生むことになる。また、スタッフのカウンセラーとしての技量と専門性を高めるために研鑽を積むことも必要である。

3. 今後の計画（平成 24・25 年度）

今年度末で、補助事業の取組としては区切りを迎えるが、大学の事業としては継続し、今後数年の取組の検証を踏まえて次段階への展開を検討する。

今後の計画として、現時点で想定している具体的な取組内容を示す。尚これまでのさまざまな取組については可能な範囲で実施継続することを前提とする。

■卒業生参加型・卒業生ロールモデル授業

- ・これまで通りに継続するが、できるだけ同じ学科の卒業生に来ていただけるよう、さらに学科との連携を強めながら実施する。
- ・また、卒業生にもアンケート協力を依頼し、取組の改善、質の向上に努める。

■アラムナITEキスト・DVDの活用

- ・第1章で報告の通り、アラムナITEキストとして、「燦 一しなやかに そして力強く一」をテーマに、28名の若い卒業生の活躍をまとめた。これは平成24(2012)年度から、キャリア教育科目の授業補助教材として活用するものである。2年生必須の「実践キャリアプランニング」と、一部のキャリア教育科目で配布を予定している。
- ・アラムナイDVD「輝く女性たちへ 社会で輝く実践生」についても、初年次教育、キャリア教育の補助教材として授業活用するとともに、キャリアセンタープログラムをはじめ、イベント等でも紹介を行っていく。

■SNS「実践アラムナイ」の機能強化と運用範囲の拡大

- ・SNS「実践アラムナイ」では、すでに在学生向けにキャリア教育科目の動画コンテンツを学内向けに運用しているが、動画配信機能追加(学外)を行い、簡易な管理操作で、在学生の他、卒業生が学外PCから接続した場合でも安全に認証し動画コンテンツを利用できるようにする。
- ・キャリアセンターが展開する「実践アラムナイ」での卒業生就職支援、情報提供を、短期大学卒業生にも拡大を検討する。
- ・ゼミやサークル活動での利用拡大を検討する。

■キャリアセンタープログラム

- ・キャリアセンターが実施してきたOG訪問会をはじめとするイベントやプログラムは今後も実施するが、「父母のための就職セミナー」については前述の通り、平成22(2010)年度から大学・短期大学事務部とキャリアセンターで合同で企画開催してきた父母対象の「修学就職支援フェア」に統合し、キャリア形成・就職支援の取組として今後も展開していく。
- ・「プレ社会人セミナー」は、4年生後期開講のキャリア教育科目として単位化を計画している。
- ・卒業生向けの講演会等イベントの実施。

終章

「補助事業終了の区切りを迎えて」



大学教育研究センター センター長 細川 優

平成21(2009)年度から3年間かけて「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」と題して大学教育・学生支援推進事業【テーマB】を展開する機会に恵まれた。組織的なGPを展開するのは、本学では初めての経験であり、手探り状態でスタートしたが、大学事務部教務担当およびキャリアセンター諸氏の多大な努力により3年間の補助事業を終えることができた。

本学では、平成19(2007)年より、出口管理、すなわち「実践女子大学卒業生が持ち合わせている能力を社会に対して保証する」という観点から、学生教育において何が必要かを議論し、平成21(2009)年度から全学生が履修することができる共通教育に「実践スタンダード」科目を導入した。その柱となる科目が、「実践入門セミナー」と「実践キャリアプランニング」である。実践入門セミナーは、本学の初年次教育科目で、全学必修である。全学部・学科とも約20名のクラスで、学科の専任教員がセミナー形式で、学習および学生生活のスキルを学ばせることを主目的としている。実践入門セミナーのなかでは、本学の設立理念、教育理念を学ぶことを目的に、本学の学祖である下田歌子をロールモデルとした「下田歌子に学ぶ」を展開している。また、平成22(2010)年から「キャリアガイダンス」の実施が義務付けられたが、本学では、平成21(2009)年から年次進行に沿ったキャリア教育を実施している。1年次には、実践入門セミナーの2コマを使って、これから始まるキャリア教育の概要を説明するとともに、社会の動きと社会が求める人材について紹介し、学習意欲の向上につなげる取り組みを行っている。

「実践キャリアプランニング」は、2年次の前・後期に展開している。全学必修のキャリア教育入門科目である。「実践キャリアプランニング」は、キャリア支援科目ではなく、卒業後を視野に入れた夢の実現に向けて、キャンパスライフをどのように設計するかを考えさせることを主目的としている。授業の中では、実際の社会の姿を知る目的で、働くことの意義や職業・職種および社会が求める能力についても学んでいく。3年次になると、「インターンシップ」や実践キャリアプランニングの各論にあたる「キャリアデザイン」を選択科目で配当している。この科目では、具体的な業界・企業・業種を学ぶとともに、コミュニケーションスキルについても学んでいく。

今回の大学教育・学生支援推進事業「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」では、「アラムナイネットワーク」と名づけた在学生と卒業生をつなぐ人的ネットワークの構築を基本にさまざまな取組を行うが、「実践キャリアプランニング」では、それを具体化する目的で、社会で活躍する本学卒業生を身近なロールモデルとして授業に招き、学生生活、職業選択、就職活動、社会における活動状況、将来の夢などを語ってもらい、将来の参考にしてもらっている。卒業生が授業に参加するこの試みは事業の一つの柱であり、就職支援プログラムのOG訪問会とともに、メインテーマである。本書で報告の通り、毎回授

業終了後にアンケートを実施しているが、学生の満足度は非常に高い結果となっている。

Web上のコミュニティ「実践アラムナイ」を立ち上げ、それを活用して、就職活動や生き方に関わる在学生が知りたい点や疑問点に対して卒業生がアドバイスしていく双方向の人的ネットワークコミュニティ作りももう一つの柱となっている。また、卒業生に対しては、そのニーズに対応しうる情報提供や講演会の開催などを通じて、本学で学んだ仲間〈ピア〉達への生涯にわたるキャリア支援をすることも目的としている。「実践アラムナイ」の運用・活用には改善点が多々あり、継続した取り組みが必要であると感じている。また平成23(2011)年12月には、「実践アラムナイ総会」を開催したが、残念ながら参加者が少なく、今後の周知・広報のあり方等、いくつかの問題を投げかける結果となった。

今回の事業は、いずれも多くの卒業生の協力をいただくことができなければ成立しないものばかりである。報告書の第1章、第2章で示した通り、多くの卒業生と、そしてその勤務先の企業・組織の皆様のご理解とご協力をいただいたこと、第3章で示したWeb上のコミュニティ「実践アラムナイ」についても、これまでに100名近い卒業生が登録していただいたことに対して、心より感謝申し上げたい。

今年度(平成23(2011)年度)末で、補助事業としては区切りの年を迎えるが、大学の事業としては継続する。最後に、これまでご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げるとともに、今後ともご支援をお願いし、3年間の補助事業終了のご挨拶としたい。

「未来へ向けて」



キャリアセンター長 金田 肇

今企業ではこれまでのようなワンウェイな宣伝・広報活動ではなく、限定された顧客との双方向の会話を進めるべく、デジタルコミュニケーションへの取り組みが急ピッチで展開されている。個人レベルでは既に、MixiやTwitter等の普及が進んでいるが、組織体としても近年FacebookやTwitterを使った広報や双方向コミュニケーションを本格導入する動きが加速している。

実践アラムナイを今後ますます進化させ、卒業生・在学生・学園のトライアングルコミュニケーションの場として発展させていきたいと考えている。社会での動きのレポートや、悩みを学園と一緒に共有し、問題の解決にあたり、在学生の授業や就職・進路に関して卒業生の経験を交え、学園と共に考えていく、そのような使い方が出来れば、大きな「デジタル燦広場」が出来あがると確信している。

渋谷移転に伴う二拠点化は、ややもすればコミュニケーションの谷間が出来てしまう可能性もある。ゆえに「実践アラムナイ」の更なる進化にかかる期待も大きくなると思われる。